

[保健福祉事業]

医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業報告書

【平成20事業年度報告書】

平成21年12月

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

はじめに

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況を報告していただく調査研究事業を実施するにあたり、有識者の方からご意見をいただくために平成18年4月に「医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査研究班」を設置しました。

本報告書は、平成20年4月から平成21年3月までの日常生活の状況等について調査を実施してその結果をとりまとめたものです。

日常生活の状況等の調査の実施に当たっては、健康被害を受けた方や家族の方々のご協力をいただき心から感謝を申し上げます。

〔医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に
係るQOL向上等のための調査研究班〕

班 長	宮 田 和 明	日本福祉大学名誉教授 認知症介護研究・研修大府センター研修部長
	高 橋 孝 雄	慶應義塾大学医学部教授（小児科学）
	坪 田 一 男	慶應義塾大学医学部教授（眼科学）
	松 永 千恵子	国際医療福祉大学医療福祉学部准教授

目 次

I	医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査 研究事業の実施概要	1
II	生活状況調査結果のとりまとめについて	
1.	回答状況	3
2.	基本情報	3
3.	調査結果の概要	
(1)	A票(福祉サービスの利用状況についての調査)からみた生活状況の概要	
○	治療状況について	4
○	使用している点眼液について (SJSの健康被害者の方のみに質問)	6
○	福祉サービスの利用状況について	7
(2)	B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要	
①	健康被害者の外出の頻度	12
②	外出に当たって困ること・不満に思うことの有無	16
③	社会参加や社会活動等の状況	20
④	日常生活における工夫について	24
⑤	日常生活について (SJSの健康被害者の方のみに質問)	27
⑥	福祉サービスについて	35
(3)	C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要	
○	過去1年間の日常生活について	39
○	福祉サービスについて	54
III	健康状態報告書(D票(調査研究事業用診断書))のまとめについて	59
IV	むすび	63
V	参考資料	65
VI	用語の解説	79
VII	保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書(生活状況調査票)	83
VIII	健康状態報告書(診断書様式)	107

**I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
QOL向上等のための調査研究事業の実施概要**

医薬品による重篤かつ希少な健康被害に係る QOL向上等のための調査研究事業の実施概要

1. 目的

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得ることを目的として、調査研究事業を実施した。

2. 事業内容

健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等について、調査票等により報告していただき、その内容について集計と解析・評価を行う。

(1) 事業実施時期

平成20年4月1日から平成21年3月31日

(2) 調査研究対象者

医薬品の副作用により重篤(障害年金受給相当)かつ希少な健康被害(ライ症候群及び重度のSJS)を受けた者

(3) 調査票の種別

ア. 生活状況調査票(本人記入用)

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)

B票(社会活動を中心とした調査)

C票(過去1年間の日常生活状況調査)

イ. 健康状態報告書(医師記入用)

D票(調査研究事業用診断書)

①医薬品副作用被害救済制度における障害年金等受給者は、現況届に添付する診断書の写しを健康状態報告書として取り扱う。

②医薬品副作用被害救済制度の障害年金等受給者以外の者はD票(本調査研究事業用診断書)を提出する。

(4) 調査票の記入時期及び提出時期

調査票	記入時期	提出時期
A票	毎月の状況を末日に記入する。	3ヶ月分まとめて 7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
B票	3ヶ月間の状況を四半期毎の (6月、9月、12月、3月) 末日に記入する。	7月、10月、1月、4月の 各月の10日までに提出
C票	1年間の状況を年1回3月末 日に記入する。	4月10日までに提出
D票	年1回12月の健康状態を医 師が記入する。	1月10日までに本人が提出

II 生活状況調査結果のとりまとめについて

生活状況調査結果のとりまとめについて

1. 回答状況（各四半期共通）

各四半期における調査への回答状況（回収率等）は、

○第1・四半期： 63名中57名（回収率90.5%）内ライ症候群：4名、SJS：53名

○第2・四半期： 63名中60名（回収率95.2%）内ライ症候群：4名、SJS：56名

○第3・四半期： 61名中58名（回収率95.1%）内ライ症候群：3名、SJS：55名

○第4・四半期： 61名中55名（回収率90.2%）内ライ症候群：4名、SJS：51名

である。以下、特段の記載がない限り、各四半期の集計に当たっての母数は上記のとおり。

また、割合等の集計結果は端数処理（四捨五入）の関係で合計が一致しない場合がある。

2. 基本情報

表—1 男女・年代別（人数）

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
男	1	2	2	6	6	7	6	4	1	35
女	0	1	2	6	3	7	5	4	0	28
合計	1	3	4	12	9	14	11	8	1	63

表—2 男女・疾病別（人数）

	ライ症候群	SJS	合計
男	1	34	35
女	3	25	28
合計	4	59	63

表—3 疾病・年代別（人数）

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
ライ症候群	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4
SJS	0	3	3	10	9	14	11	8	1	59
合計	1	3	4	12	9	14	11	8	1	63

3. 調査結果の概要

(1) A票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

■ 治療状況について

○ 医療機関での治療状況は、表1-1及び図1-1のとおり。

表1-1 医療機関での治療状況

月	入院中	通院中	未治療	不明	合計
4月	2	51	1	3	57
	3.5%	89.5%	1.8%	5.3%	100.0%
5月	2	49	1	5	57
	3.5%	86.0%	1.8%	8.8%	100.0%
6月	1	50	1	5	57
	1.8%	87.7%	1.8%	8.8%	100.0%
7月	1	55	1	3	60
	1.7%	91.7%	1.7%	5.0%	100.0%
8月	1	54	1	4	60
	1.7%	90.0%	1.7%	6.7%	100.0%
9月	1	53	1	5	60
	1.7%	88.3%	1.7%	8.3%	100.0%
10月	1	51	2	4	58
	1.7%	87.9%	3.4%	6.9%	100.0%
11月	1	52	1	4	58
	1.7%	89.7%	1.7%	6.9%	100.0%
12月	2	50	2	4	58
	3.4%	86.2%	3.4%	6.9%	100.0%
1月	5	46	2	2	55
	9.1%	83.6%	3.6%	3.6%	100.0%
2月	2	49	2	2	55
	3.6%	89.1%	3.6%	3.6%	100.0%
3月	3	49	1	2	55
	5.5%	89.1%	1.8%	3.6%	100.0%
平均	1.8	50.8	1.3	3.6	57.5
	3.2%	88.3%	2.3%	6.2%	100.0%
19年度 平均	3.3	47.5	1.0	4.9	56.8
	5.9%	83.7%	1.8%	8.7%	100.0%
18年度 平均	3.6	44.1	1.9	6.3	55.9
	6.5%	78.9%	3.4%	11.2%	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

□ 年間の平均では、入院中が 3.2%、通院中（「往診」も含む）が 88.3%、未治療が 2.3%となっている

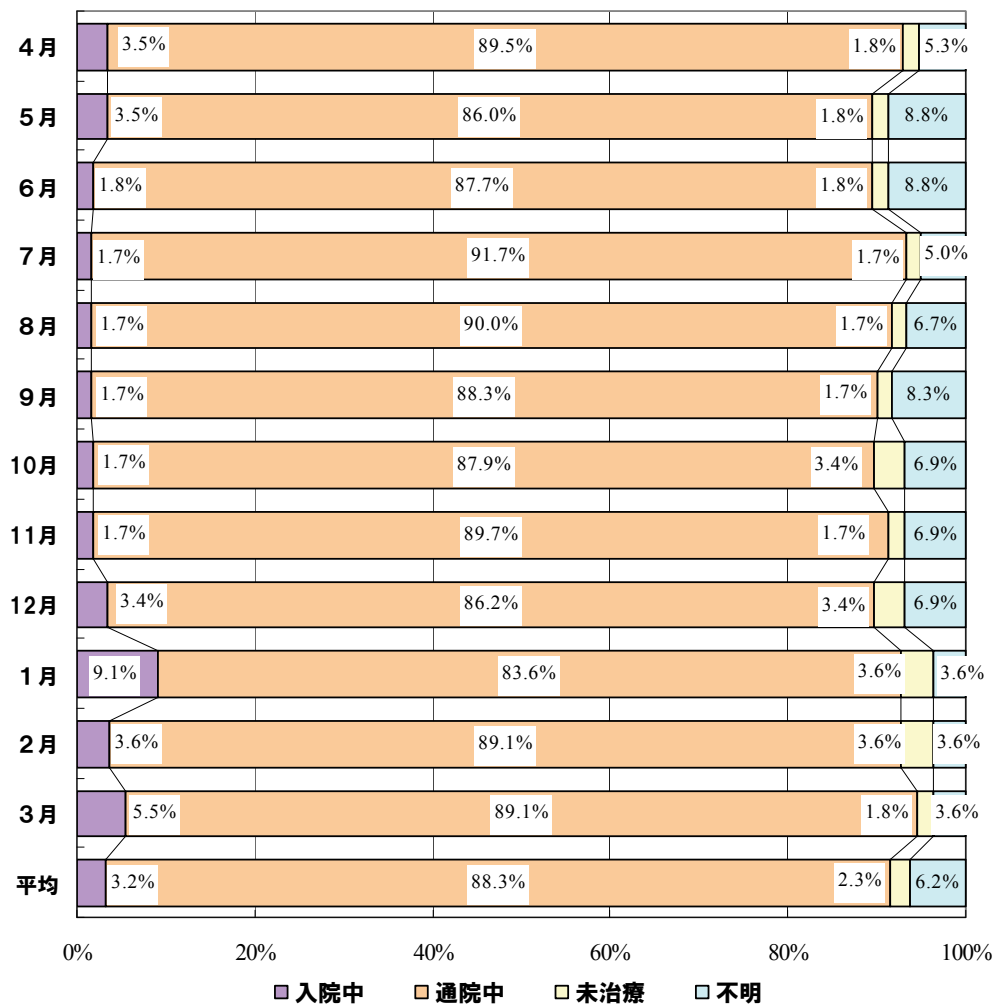


図 1-1 医療機関での治療状況

■ 使用している点眼液について（SJSの健康被害者の方のみに質問）

○ SJSの健康被害者が現在使用している点眼液は、表1-2のとおり。なお、各月の延べの使用人数を示している。

表1-2 現在使用している点眼液

点眼液	投与	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① ソフトサンティア	両眼	21	23	22	22	21	22	21	21	21	21	21	21	21.4
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.2
	合計	22	25	24	23	22	23	22	22	22	22	22	22	22.6
② クラビット	両眼	14	14	14	17	17	17	15	15	15	15	16	15	15.3
	右眼	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0.7
	左眼	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2.8
	合計	17	18	18	20	20	20	18	18	18	19	20	19	18.8
③ ヒアレイン	両眼	8	7	7	8	8	8	7	7	8	7	7	7	7.4
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	1.5
	合計	10	9	9	10	10	10	9	9	10	7	7	7	8.9
④ フルメトロン	両眼	26	26	26	27	27	26	28	28	27	24	24	24	26.1
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0	0	1.3
	合計	28	28	28	29	29	28	29	29	28	24	24	24	27.3
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	両眼	15	15	14	16	15	16	16	16	16	14	14	14	15.1
	右眼	0	0	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0.8
	左眼	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1.5
	合計	16	16	15	20	19	20	18	18	18	16	16	16	17.3
⑥ リンデロン	両眼	5	5	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	3.0
	右眼	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0.8
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1.3
	合計	7	7	6	5	4	4	4	4	4	5	5	5	5.0
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	両眼	13	13	13	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10.9
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	13	13	13	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10.9
⑧ 血清点眼	両眼	7	7	7	7	6	7	4	4	4	5	5	6	5.8
	右眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
	左眼	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1.2
	合計	9	9	8	9	8	9	6	6	6	8	8	9	7.9
⑨ その他眼科処方薬	両眼	72	72	70	68	67	68	64	65	64	63	62	62	66.4
	右眼	10	10	10	11	10	11	10	10	10	10	10	10	10.2
	左眼	7	7	9	12	11	12	12	12	13	9	9	9	10.2
	合計	89	89	89	91	88	91	86	87	87	82	81	81	86.8
⑩ 涙点プラグ	両眼	4	5	4	4	4	4	6	6	6	8	8	8	5.6
	右眼	0	0	0	2	1	3	1	1	1	0	0	0	0.8
	左眼	3	3	3	4	3	4	4	4	4	3	3	3	3.4
	合計	7	8	7	10	8	11	11	11	11	11	11	11	9.8
SJS回答者数		53	53	53	56	56	56	55	55	55	51	51	51	—
点眼液投与者数		50	51	51	54	52	53	53	53	53	50	50	50	—

□ 点眼液を使用している平均延べ人数では、フルメトロンが27.3人、ソフトサンティアが22.6人、クラビットが18.8人、0.1%ヒアレインミニが17.3人となっている

■ 福祉サービスの利用状況について

- 福祉サービスの利用状況は、以下のとおり。
- なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の5段階で評価しており、
 - ・ 満足： 5点
 - ・ やや満足： 4点
 - ・ どちらでもない： 3点
 - ・ やや不満： 2点
 - ・ 不満： 1点
 の点数となっている。
- 併せて、平成18年度及び平成19年度の平均値も示してある。

① 訪問介護

- 福祉サービスのうち、訪問介護の利用状況は、表1-3のとおり。

表1-3 訪問介護の月別の利用状況

訪問介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数(人)	4	4	5	6	6	6	6	7	7	5	5	6	5.6	5.0	4.8
平均利用日数(日)	14.8	14.8	14.8	14.5	14.5	13.7	14.2	13.9	14.3	11.4	15.6	14.5	14.2	14.2	15.1
満足度平均(5点満点)	3.8	3.8	3.6	4.0	3.7	4.0	4.3	4.7	4.1	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.0

- 利用者数は延べ67人で、平均では毎月5.6人が利用している
- 平均利用日数は月に14.2日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると4.1点であり「やや満足」を上回っている
- 満足度が高い理由としては「ヘルパーが親切」などをあげている。一方、満足度が低い理由としては「時間が短い」などをあげている

② 訪問入浴介護

- 福祉サービスのうち、訪問入浴介護の利用状況は、表1-4のとおり。

表1-4 訪問入浴介護の月別の利用状況

訪問入浴介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数(人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1.3	2.1
平均利用日数(日)	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.8	9.8
満足度平均(5点満点)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	3.1	2.9	3.4

- 利用者数は延べ12人で、平均では毎月1人が利用している
- 平均利用日数は月に4.0日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると3.1点となっている

③ 訪問看護

- 福祉サービスのうち、訪問看護の利用状況は、表 1-5 のとおり。

表 1-5 訪問看護の月別の利用状況

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	2	1.0	1.6	2.0
平均利用日数（日）	4.0	5.0	4.0	5.0	4.0	4.0	5.0	4.0	4.0	—	4.0	4.5	4.3	4.7	6.0
満足度平均（5点満点）	4.0	4.0	4.0	5.0	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.4	4.5	4.7

- 利用者数は延べ 12 人で、平均では毎月 1 人が利用している
- 平均利用日数は月に 4.3 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 4.4 点となっている
- 満足度が高い理由としては「看護師が親切」などをあげている

④ 訪問リハビリテーション

- 福祉サービスのうち、訪問リハビリテーションの利用状況は、表 1-6 のとおり。

表 1-6 訪問リハビリテーションの月別の利用状況

訪問リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1.3	1.8
平均利用日数（日）	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0	5.0	3.9	5.5	12.4
満足度平均（5点満点）	4.0	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.7	5.0

- 利用者数は延べ 12 人で、平均では毎月 1 人が利用している
- 平均利用日数は月に 3.9 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると満点の 4.8 点となっている
- 満足度が高い理由としては「痛みがやわらぐ」「体の調子が良い」などをあげている

⑤ 居宅療養管理指導

- 福祉サービスのうち、居宅療養管理指導の利用状況は、表 1-7 のとおり。

表 1-7 居宅療養管理指導の月別の利用状況

居宅療養管理指導	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2.5	2.1	2.7
平均利用回数（回）	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.7
満足度平均（5点満点）	4.0	4.0	4.0	4.3	4.3	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	4.5	4.8	4.8

- 利用者数は延べ 30 人で、平均では毎月 2.5 人が利用している
- 平均利用回数は月に 1.4 回となっている

- サービスに対する満足度は平均すると 4.5 点となっている
- 満足度が高い理由としては「医師がとても良く診てくれる」などをあげている

⑥ 通所介護

- 福祉サービスのうち、通所介護の利用状況は、表 1-8 のとおり。

表 1-8 通所介護の月別の利用状況

通 所 介 護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	3	3	3	3	3	3	2	1	1	3	3	3	2.6	2.7	3.0
平均利用回数（回）	8.7	9.0	8.3	8.0	8.0	9.0	6.5	8.0	9.0	8.3	9.3	9.3	8.5	9.0	7.6
満足度平均（5点満点）	3.3	3.8	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	5.0	5.0	4.3	5.0	4.7	4.1	4.5	4.6

- 利用者数は延べ 31 人で、平均では毎月 2.6 人が利用している
- 平均利用回数は月に 8.5 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 4.1 点となっている
- 満足度が高い理由としては「職員が親切、良くしてもらっている」などをあげている

⑦ 通所リハビリテーション

- 福祉サービスのうち、通所リハビリテーションの利用状況は、表 1-9 のとおり。

表 1-9 通所リハビリテーションの月別の利用状況

通所リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	5	4	6	6	5	6	5	5	5	5	6	6	5.3	4.8	2.3
平均利用回数（回）	5.8	6.8	6.0	5.8	5.8	5.8	7.8	7.4	7.4	5.2	5.8	5.8	6.3	4.8	4.7
満足度平均（5点満点）	3.8	3.6	4.3	3.5	3.2	3.7	4.6	4.2	4.2	4.2	4.3	3.8	4.0	4.1	3.3

- 利用者数は延べ 64 人で、平均では毎月 5.3 人が利用している
- 平均利用回数は 6.3 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 4.0 点となっている
- 満足度が高い理由としては「体調が良くなった」「家でできないことができる」などをあげている。一方、満足度が低い理由としては「効果がわからない」などをあげている

⑧ 短期入所

- 福祉サービスのうち、短期入所の利用状況は、表 1-10 のとおり。

表 1-10 短期入所の月別の利用状況

短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0.4	0.3	0.6
平均利用回数（回）	—	2.0	—	1.0	1.0	—	—	—	1.0	—	1.0	—	1.2	4.5	3.0
満足度平均（5点満点）	—	2.0	—	2.0	2.0	—	—	—	3.0	—	5.0	—	2.8	3.3	3.3

□ 5月、7月、8月、12月及び2月に1人のみの利用であった

⑨ 送迎サービス

○ 福祉サービスのうち、送迎サービスの利用状況は、表 1-11 のとおり。

表 1-11 送迎サービスの月別の利用状況

送迎サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	5	4	6	6	5	7	5	6	6	4	6	5	5.4	4.7	3.8
平均利用回数（回）	9.2	11.8	8.3	8.0	9.4	8.4	8.4	7.5	7.2	11.3	9.8	11.2	9.2	9.3	9.5
満足度平均（5点満点）	4.3	4.2	3.7	3.9	3.2	3.5	3.8	3.7	4.0	4.8	4.5	4.6	4.0	4.0	4.2

□ 利用者数は延べ 65 人で、平均では毎月 5.4 人が利用している

□ 平均利用回数は月に 9.2 回となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると「やや満足」の 4.0 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「運転手さんが親切」「交通手段がないので助かっている」などをあげている

⑩ ガイドヘルパー

○ 福祉サービスのうち、ガイドヘルパーの利用状況は、表 1-12 のとおり。

表 1-12 ガイドヘルパーの月別の利用状況

ガイドヘルパー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	9	10	8	10	11	10	11	11	11	12	9	10	10.2	9.8	8.5
平均利用回数（回）	7.4	6.1	6.8	7.9	6.5	8.4	6.6	7.0	7.1	5.6	6.6	6.4	6.9	7.6	7.4
満足度平均（5点満点）	4.1	3.7	4.1	3.8	3.7	3.8	4.2	4.4	4.4	4.0	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0

□ 回答者数は延べ 122 人で、平均では毎月 10.2 人が利用している

□ 平均利用回数は月に 6.9 回となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると「やや満足」を上回る 4.1 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「同じ人が対応してくれて親切」「家族不在時等に助かっている」などをあげている。一方、満足度が低い理由としては「予定変更が難しい」「利用時間が不足」などをあげている

⑪ その他の福祉サービス

○ 上記①～⑩以外の福祉サービスの利用状況は、表 1-13 のとおり。

表 1-13 その他の福祉サービスの月別の利用状況

その他の福祉サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	19 平均	18 平均
利用者数（人）	4	6	4	5	5	5	5	3	3	6	4	4	4.5	2.7	3.5
平均利用回数（回）	8.5	11.0	10.3	9.4	5.8	8.0	6.6	8.7	8.0	5.7	7.5	7.5	8.1	8.6	7.2
満足度平均（5点満点）	4.0	4.1	4.0	3.5	3.2	3.7	4.3	4.4	4.3	3.5	4.0	3.8	3.9	4.0	4.1

- 回答者数は延べ 54 人で、平均では毎月 4.5 人が利用している
- 平均利用回数は月に 8.1 回となっている
- 具体的なサービス内容としては、配食サービス、対面朗読、点字図書館などをあげている

⑫ 福祉サービスの年間利用状況

○ 上記①～⑪に示した各福祉サービスの年間の平均利用状況（日数または回数）及び満足度の平均点数をとりまとめると、図 1-2 のとおり。

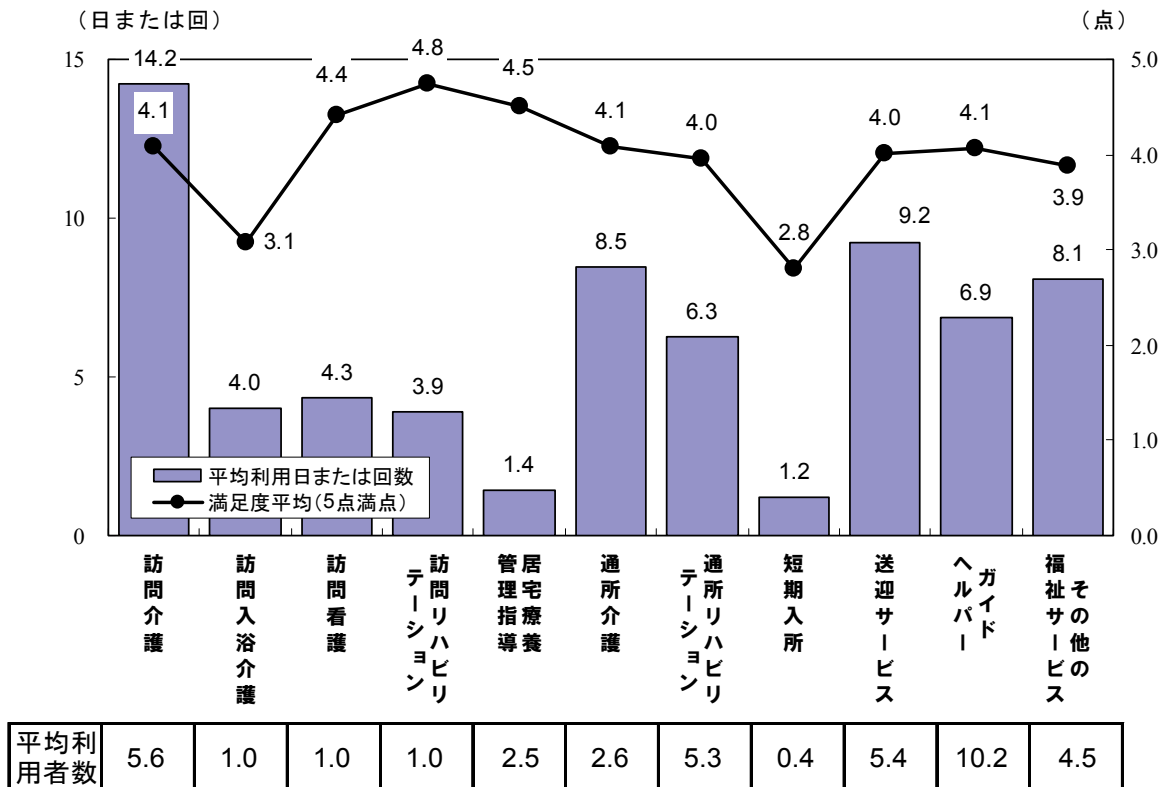


図 1-2 福祉サービスの年間利用状況

- 1 年間、福祉サービスを利用して満足度が高かったサービスは、訪問リハビリテーションの 4.8 点、居宅療養管理指導の 4.5 点、訪問看護の 4.4 点、訪問介護、通所介護及びガイドヘルパーの 4.1 点となっている

(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要

① 健康被害者の外出の頻度

ア 第1・四半期（回答者 57人）

- 第1・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が19.3%、週に4～5回が17.5%、週に2～3回が28.1%となっている
- 一方、月に2～3回が24.6%、まったく外出していないが8.8%となっている

イ 第2・四半期（回答者 60人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が23.3%、週に4～5回が13.3%、週に2～3回が23.3%となっている
- 一方、月に2～3回が31.7%、まったく外出していないが6.7%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 58人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が25.9%、週に4～5回が12.1%、週に2～3回が27.6%となっている
- 一方、月に2～3回が27.6%、まったく外出していないが5.2%となっている

エ 第4・四半期（回答者 55人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出頻度については、表2-1及び図2-1のとおり。
- ほぼ毎日が21.8%、週に4～5回が12.7%、週に2～3回が29.1%となっている
- 一方、月に2～3回が32.7%、まったく外出していないが3.6%となっている

オ 四半期ごとのまとめ

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-1及び図2-1のとおり。
- 年間の平均では、月に2～3回外出している人が29.1%、以下、週に2～3回外出している人が27.0%、ほぼ毎日外出している人が22.6%となっている

表 2-1 健康被害者の外出頻度

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	まったく外出していない	その他、回答なし	合計
第1・四半期	11 19.3%	10 17.5%	16 28.1%	14 24.6%	5 8.8%	1 1.8%	57 100.0%
第2・四半期	14 23.3%	8 13.3%	14 23.3%	19 31.7%	4 6.7%	1 1.7%	60 100.0%
第3・四半期	15 25.9%	7 12.1%	16 27.6%	16 27.6%	3 5.2%	1 1.7%	58 100.0%
第4・四半期	12 21.8%	7 12.7%	16 29.1%	18 32.7%	2 3.6%	0 0.0%	55 100.0%
年間単純平均	13.0 22.6%	8.0 13.9%	15.5 27.0%	16.8 29.1%	3.5 6.1%	0.8 1.3%	57.5 100.0%
19年度平均	14.8 26.0%	6.0 10.6%	12.8 22.5%	15.5 27.2%	5.5 9.7%	2.3 4.0%	56.8 100.0%
18年度平均	12.0 21.5%	5.8 10.5%	14.3 25.5%	13.0 23.0%	6.3 11.3%	4.8 8.3%	56.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

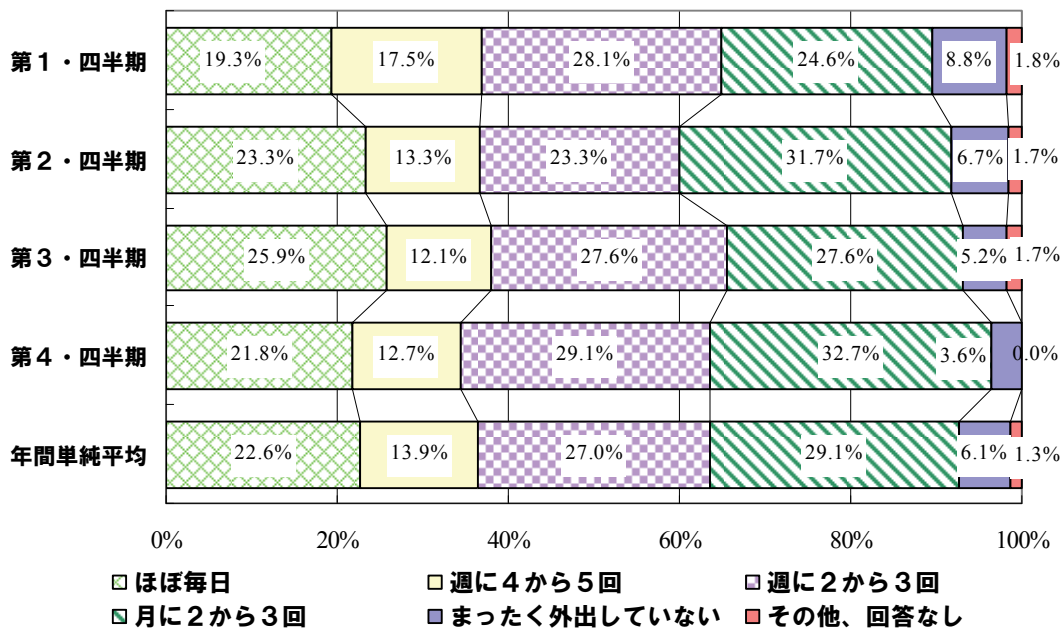


図 2-1 健康被害者の外出頻度

①-1 外出に当たっての介助者

ア 第1・四半期（回答者 51人）

○外出したとする人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2のとおり（複数回答）。

- 主たる介助者は「配偶者」が47.1%、「親」が25.5%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が21.6%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は25.5%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「友人」「通所施設の職員」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 55人）

○第2・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2のとおり（複数回答）。

- 主たる介助者は「配偶者」が47.3%、「親」が20.0%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が23.6%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は29.1%となっている
- その他の介助者としては、「友人」「学校の先生」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 54人）

○第3・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2のとおり（複数回答）。

- 主たる介助者は「配偶者」が42.6%、「親」が25.9%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が24.1%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は29.6%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービススタッフ」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 53人）

○第4・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表2-2のとおり（複数回答）。

- 主たる介助者は「配偶者」が37.7%、「親」が28.3%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が24.5%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は30.2%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「通所施設の職員」「デイサービススタッフ」などをあげている

オ 四半期ごとのまとめ

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-2のとおり（複数回答）。

- 外出時の主な介助者の年間の平均では「配偶者」が43.7%、「親」が24.9%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が23.5%となっている
- 一方、「介助なし」で外出している人は28.6%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「友人」「通所施設の職員」「デイサービススタッフ」などをあげている

表2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者

	介助なし	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホーム（ガイド）ヘルパー	隣人・知人	雇人	ボランティア	その他	回答者数
第1・四半期	13	24	13	10	3	4	11	7	1	4	4	51
	25.5%	47.1%	25.5%	19.6%	5.9%	7.8%	21.6%	13.7%	2.0%	7.8%	7.8%	—
第2・四半期	16	26	11	10	5	3	13	10	0	2	4	55
	29.1%	47.3%	20.0%	18.2%	9.1%	5.5%	23.6%	18.2%	0.0%	3.6%	7.3%	—
第3・四半期	16	23	14	10	3	4	13	7	2	4	2	54
	29.6%	42.6%	25.9%	18.5%	5.6%	7.4%	24.1%	13.0%	3.7%	7.4%	3.7%	—
第4・四半期	16	20	15	9	6	5	13	8	2	2	3	53
	30.2%	37.7%	28.3%	17.0%	11.3%	9.4%	24.5%	15.1%	3.8%	3.8%	5.7%	—
年間単純平均	15.3	23.3	13.3	9.8	4.3	4.0	12.5	8.0	1.3	3.0	3.3	53.3
	28.6%	43.7%	24.9%	18.3%	8.0%	7.5%	23.5%	15.0%	2.4%	5.7%	6.1%	—
19年度平均	14.3	22.3	13.5	8.3	4.5	3.0	12.3	7.3	0.3	3.5	3.5	50.3
	28.3%	44.3%	26.9%	16.5%	9.0%	6.0%	24.4%	14.5%	0.5%	7.0%	7.0%	—
18年度平均	11.8	16.3	9.5	4.0	2.8	2.0	7.3	2.5	0.5	2.0	2.3	46.0
	25.7%	35.4%	20.8%	8.8%	6.0%	4.4%	15.9%	5.5%	1.2%	4.2%	4.8%	—

注：上段は人数、下段は割合

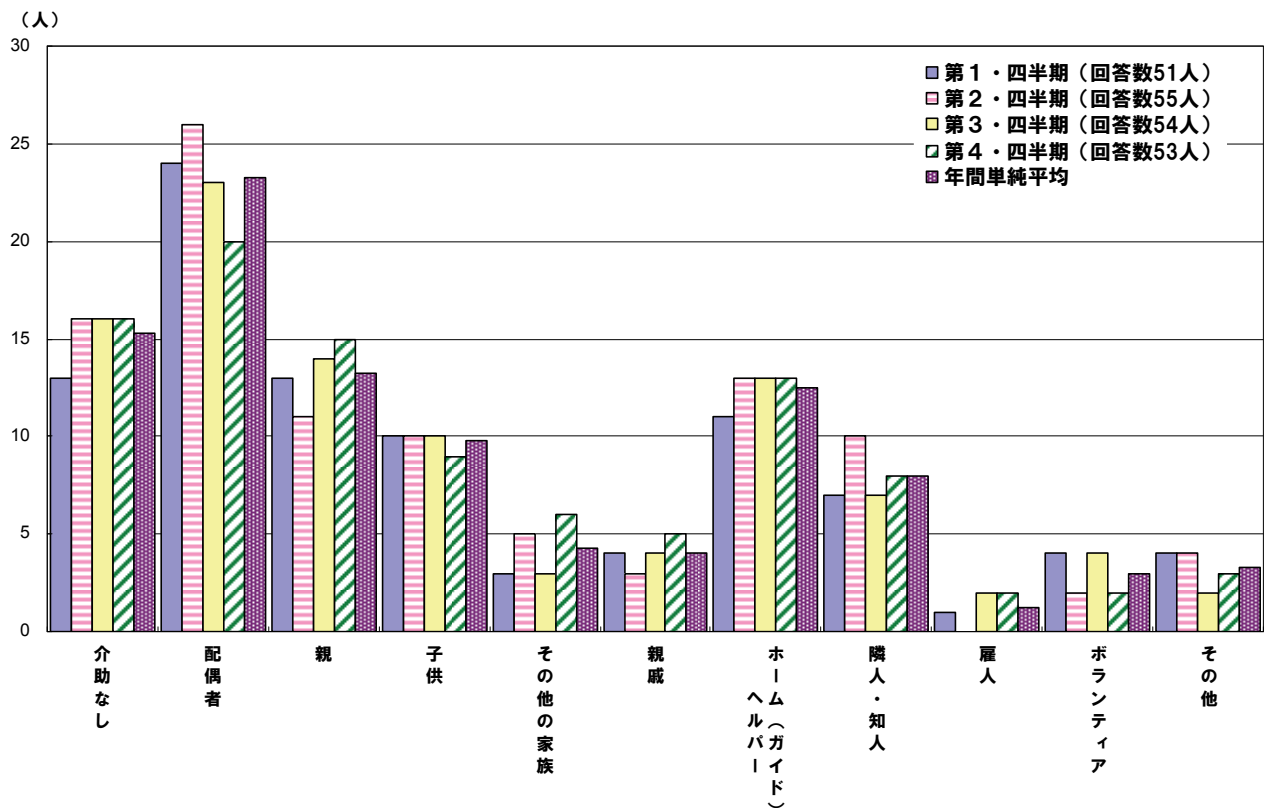


図2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者

② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無

ア 第1・四半期（回答者 57人）

○ 第1・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表2-3及び図2-3のとおり。

- 91.2%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している
- 困ることや不満に思うことがないと回答している人は、介助なしで頻繁に外出している人である

イ 第2・四半期（回答者 60人）

○ 第2・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表2-3及び図2-3のとおり。

- 86.7%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

ウ 第3・四半期（回答者 58人）

○ 第3・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表2-3及び図2-3のとおり。

- 81.0%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

エ 第4・四半期（回答者 55人）

○ 第4・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表2-3及び図2-3のとおり。

- 89.1%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

オ 四半期ごとのまとめ

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-3及び図2-3のとおり。

- 外出時に困ることや不満に思うことがあると回答した人は、年間の平均では、87.0%となっている

表 2-3 外出時の困難・不満の有無

	困ることや不満に思うことがある	困ることや不満に思うことがない	回答なし	合計
第1・四半期	52 91.2%	4 7.0%	1 1.8%	57 100.0%
第2・四半期	52 86.7%	6 10.0%	2 3.3%	60 100.0%
第3・四半期	47 81.0%	6 10.3%	5 8.6%	58 100.0%
第4・四半期	49 89.1%	3 5.5%	3 5.5%	55 100.0%
年間単純平均	50.0 87.0%	4.8 8.2%	2.8 4.8%	57.5 100.0%
19年度平均	50.3 88.5%	2.3 4.0%	4.3 7.5%	56.8 100.0%
18年度平均	47.8 85.3%	2.0 3.5%	6.3 11.1%	56.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

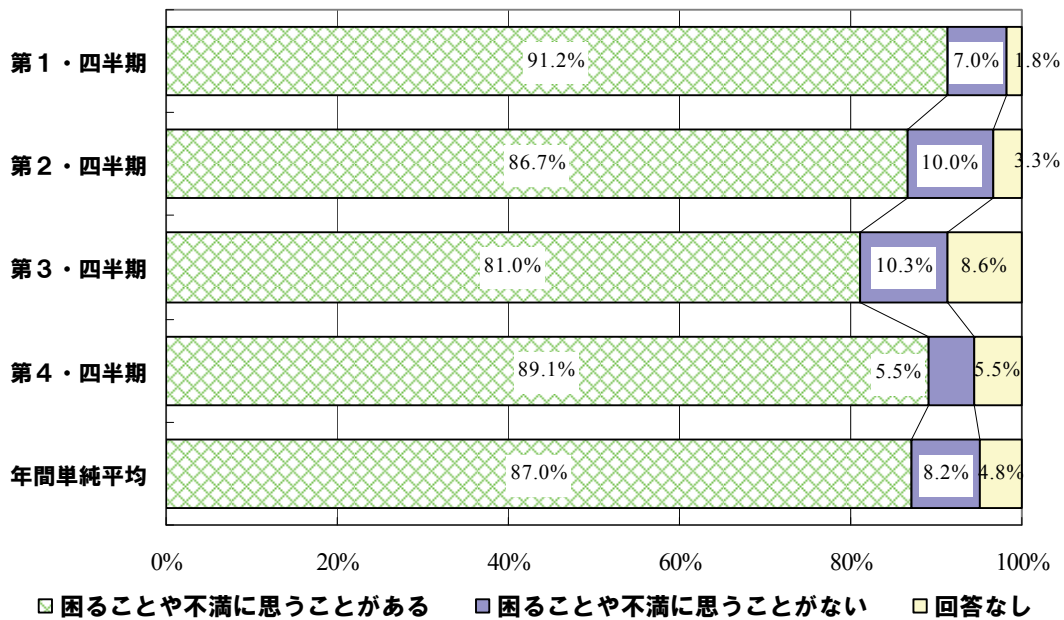


図 2-3 外出時の困難・不満の有無

②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと

ア 第1・四半期（回答者 52人）

- 外出に当たって困ること・不満に思うことがあると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が75.0%、「利用する建物の設備（階段、トイレ、エレベーター等）の利用が不便」が63.5%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が55.8%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が50.0%となっている
 - その他としては、「路上駐車」「自転車が危険」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 52人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が73.1%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が63.5%、「利用する建物の設備（階段、トイレ、エレベーター等）の利用が不便」が61.5%となっている
 - その他としては、「点字ブロック上の駐輪」「ATMや券売機のタッチパネル化」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 47人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が78.7%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が66.0%、「利用する建物の設備（階段、トイレ、エレベーター等）の利用が不便」がともに63.8%となっている
 - その他としては、「階段の段差」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 49人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4のとおり（複数回答）。
 - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が77.6%、「利用する建物の設備（階段、トイレ、エレベーター等）の利用が不便」が67.3%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」がともに59.2%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が55.1%となっている
 - その他としては、「歩道の自転車や障害物」などをあげている

オ 四半期ごとのまとめ

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-4のとおり（複数回答）。

□ 外出に当たって困ること・不満に思うことの年間の平均では「人の混雑や車に身の危険を感じる」が76.1%、「利用する建物の設備（階段、トイレ、エレベーター等）の利用が不便」が60.9%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が60.1%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が57.2%となっている

表2-4 外出に当たって困ること・不満に思うこと

	介護者がいない	経費がかかる	人の目が気になる	人と話をすることが困難	外出に必要な情報が得られない	電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便	道路や駅などの公共の場所の利用が不便	利用する建物の設備の利用が不便	人の混雑や車に身の危険を感じる	駅などにおける人間関係のトラブル	その他	回答者数
第1・四半期	7	19	9	6	10	29	26	33	39	4	5	52
	13.5%	36.5%	17.3%	11.5%	19.2%	55.8%	50.0%	63.5%	75.0%	7.7%	9.6%	—
第2・四半期	10	15	8	6	10	33	29	32	38	5	17	52
	19.2%	28.8%	15.4%	11.5%	19.2%	63.5%	55.8%	61.5%	73.1%	9.6%	32.7%	—
第3・四半期	9	19	7	7	11	31	30	24	37	4	3	47
	19.1%	40.4%	14.9%	14.9%	23.4%	66.0%	63.8%	51.1%	78.7%	8.5%	6.4%	—
第4・四半期	11	12	11	6	12	27	29	33	38	4	3	49
	22.4%	24.5%	22.4%	12.2%	24.5%	55.1%	59.2%	67.3%	77.6%	8.2%	6.1%	—
年間単純平均	9.3	16.3	8.8	6.3	10.8	30.0	28.5	30.5	38.0	4.3	7.0	50.0
	18.6%	32.6%	17.5%	12.6%	21.6%	60.1%	57.2%	60.9%	76.1%	8.5%	13.7%	—
19年度平均	7.8	13.5	8.8	6.5	11.3	29.5	28.3	31.8	37.3	5.3	8.3	50.3
	15.3%	26.8%	17.4%	12.9%	22.2%	58.7%	56.2%	63.3%	74.2%	10.3%	16.4%	—
18年度平均	8.8	16.8	5.8	6.5	9.5	26.0	27.0	30.5	34.0	6.0	8.5	47.8
	18.4%	35.0%	12.3%	13.7%	20.3%	54.6%	56.7%	63.9%	71.4%	12.7%	17.7%	—

注：上段は人数、下段は割合

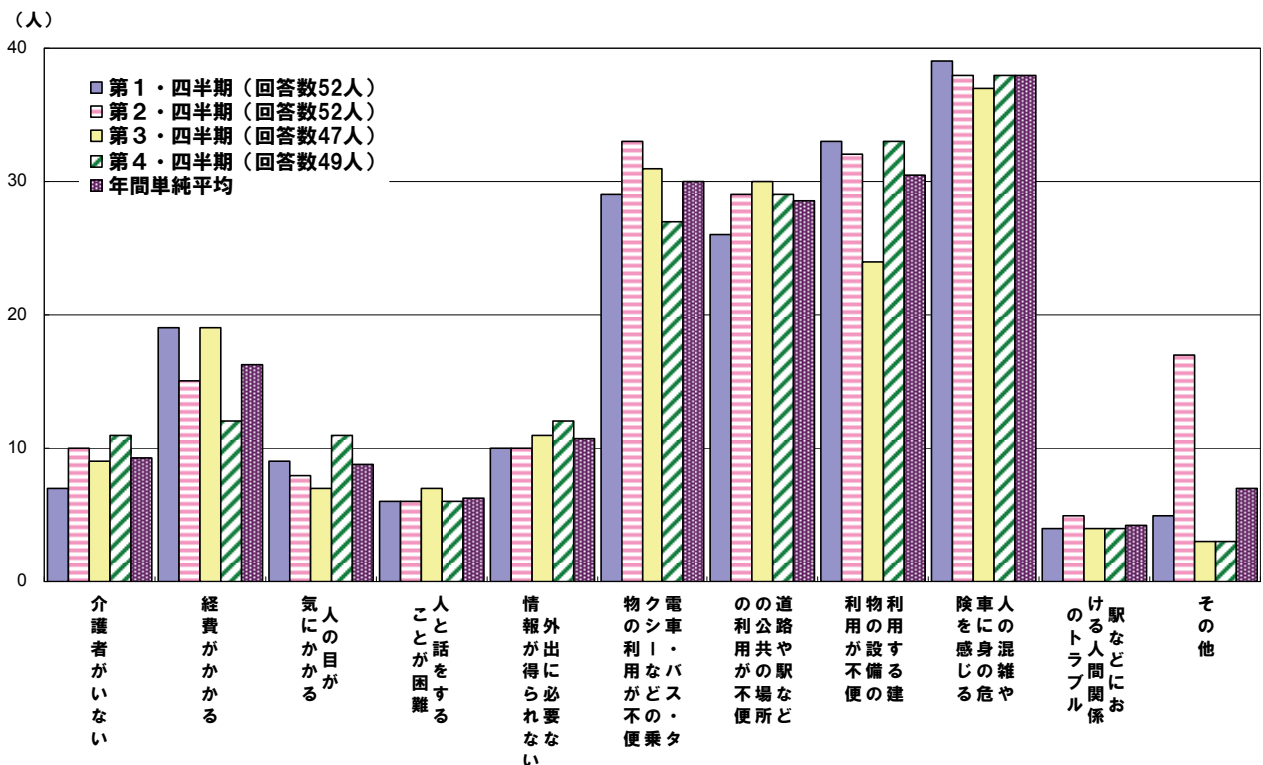


図2-4 外出に当たって困ること・不満に思うこと

③ 社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 57 人）

○ 第1・四半期における余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 49.1%、行っていない人が 49.1%となっている

イ 第2・四半期（回答者 60 人）

○ 第2・四半期における余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 53.3%、行っていない人が 45.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 58 人）

○ 第3・四半期における余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 55.2%、行っていない人が 43.1%となっている

エ 第4・四半期（回答者 55 人）

○ 第4・四半期における余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-5 及び図 2-5 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 54.5%、行っていない人が 43.6%となっている

オ 四半期ごとのまとめ

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-5 及び図 2-5 のとおり。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間の平均では、行っている人が 53.0%、行っていない人が 45.2%となっている

表 2-5 社会参加・社会活動等の実施状況

	参加 (活動) した	まったく していない	回答なし	合計
第1・四半期	28 49.1%	28 49.1%	1 1.8%	57 100.0%
第2・四半期	32 53.3%	27 45.0%	1 1.7%	60 100.0%
第3・四半期	32 55.2%	25 43.1%	1 1.7%	58 100.0%
第4・四半期	30 54.5%	24 43.6%	1 1.8%	55 100.0%
年間単純平均	30.5 53.0%	26.0 45.2%	1.0 1.7%	57.5 100.0%
19年度平均	26.3 46.3%	30.0 52.8%	0.5 0.9%	56.8 100.0%
18年度平均	24.0 42.9%	29.3 52.3%	2.8 4.8%	56.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

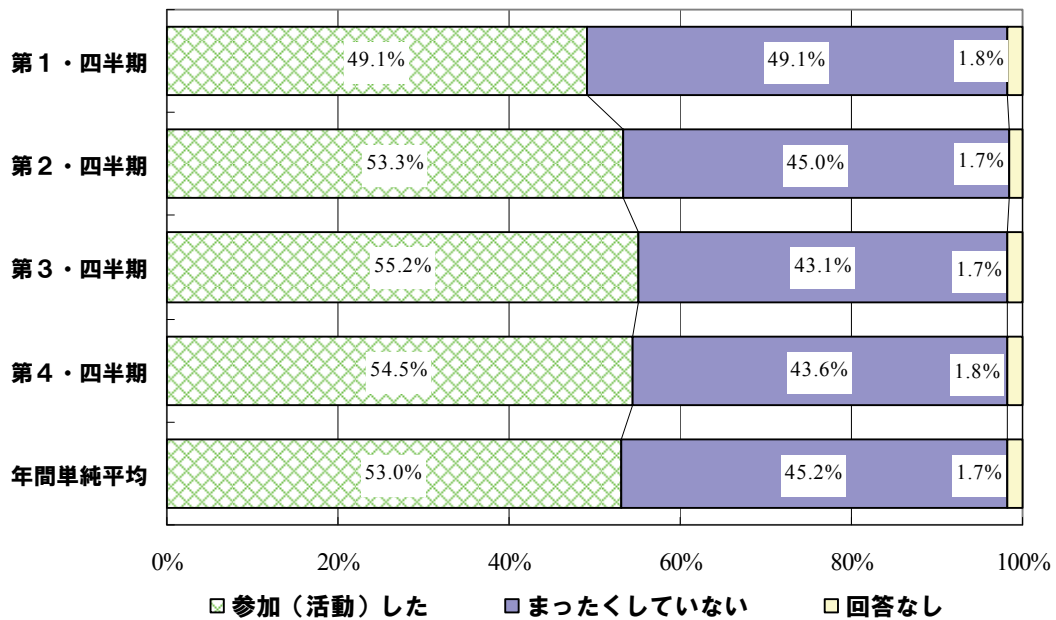


図 2-5 社会参加・社会活動等の実施状況

③-1 社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 28 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-6のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 53.6%、「障害者団体の活動」が 42.9%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 32.1%、「趣味の同好会活動」及び「パソコンを利用した社会参加」がともに 28.6%となっている
- その他としては、「学校」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 32 人）

- 第2・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-6のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 56.3%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 50.0%、「障害者団体の活動」が 43.8%、「パソコンを利用した社会参加」が 34.4%となっている
- その他としては、「学校」「タウンミーティング」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 32 人）

- 第3・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-6のとおり（複数回答）。
- 「障害者団体の活動」が 50.0%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 43.8%、「パソコンを利用した社会参加」が 31.3%となっている
- その他としては、「学校」「水族館」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 30 人）

- 第4・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-6のとおり（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 50.0%、「障害者団体の活動」が 43.3%、「パソコンを利用した社会参加」が 33.3%となっている
- その他としては、「学校」「プール」などがあげられている

オ 四半期ごとのまとめ

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-6のとおり（複数回答）。
- 社会参加・社会活動等の内容の年間平均では「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 50.9%、「障害者団体の活動」が 45.0%、「パソコンを利

用した社会参加」が 31.9%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 30.2%となっている

表 2-6 社会参加・社会活動等の内容

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	特にない	その他	回答者数
第1・四半期	15 53.6%	2 7.1%	9 32.1%	8 28.6%	2 7.1%	12 42.9%	2 7.1%	8 28.6%	0 0.0%	2 7.1%	28
第2・四半期	18 56.3%	3 9.4%	16 50.0%	4 12.5%	5 15.6%	14 43.8%	0 0.0%	11 34.4%	0 0.0%	5 15.6%	32
第3・四半期	14 43.8%	3 9.4%	6 18.8%	6 18.8%	4 12.5%	16 50.0%	0 0.0%	10 31.3%	0 0.0%	6 18.8%	32
第4・四半期	15 50.0%	3 10.0%	6 20.0%	7 23.3%	7 23.3%	13 43.3%	1 3.3%	10 33.3%	0 0.0%	5 16.7%	30
年間単純平均	15.5 50.9%	2.8 9.0%	9.3 30.2%	6.3 20.8%	4.5 14.7%	13.8 45.0%	0.8 2.6%	9.8 31.9%	0.0 0.0%	4.5 14.5%	30.5
19年度平均	13.5 51.3%	3.3 12.6%	10.3 39.4%	8.8 33.5%	4.5 17.2%	14.3 54.2%	1.8 6.7%	8.3 31.6%	0.0 0.0%	3.5 13.9%	26.3
18年度平均	11.5 48.2%	2.5 10.2%	9.5 39.6%	4.8 19.9%	5.8 24.1%	11.3 46.9%	2.0 8.3%	6.3 25.9%	0.5 2.2%	3.0 12.1%	24.0

注：上段は人数、下段は割合

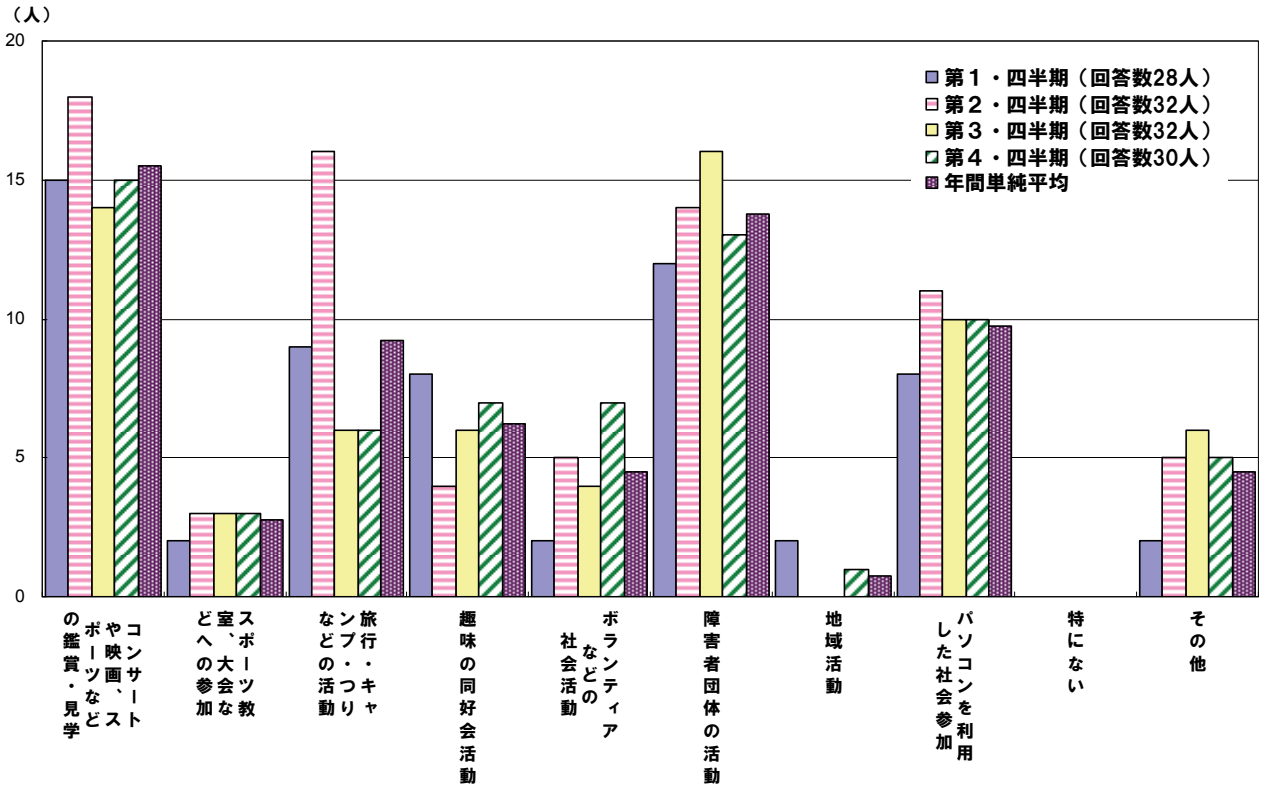


図 2-6 社会参加・社会活動等の内容

④ 日常生活における工夫について

○本人または介護者にたずねた日常生活での具体的な工夫は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

○国際生活機能分類（ICF）（1．心身機構、2．身体構造、3．活動、4．参加、5．環境因子、6．その他）に基づき分類している。

【94件（活動 8件、環境因子 86件）】

3. 活動 8件

- ・ 文章等の受け渡しは内容を口頭で良く確認して受けとる
- ・ 規則正しい生活を行い行動範囲を工夫する
- ・ 運動不足なので、散歩に出るようにしている
- ・ 家の中でできるだけ掃除等をして体を動かすようにしている
- ・ 日差しの強い日、場所、時間を避ける
- ・ 寝たきりのため、こまめに拭くなど常に清潔さは保つようにしている
- ・ 濡れたガーゼを目にテープで貼り付けて生活する
- ・ 身が不自由なので音楽や落語等を聴いて楽しむようにしている

5. 環境因子 86件

- ・ 常に外出時には杖代わりに洋傘を持つ
- ・ 動作をゆっくり行うようにする
- ・ 白線に沿って歩行
- ・ カカトの低い靴を履く
- ・ 階段は手すりをもつ
- ・ 明るい色（白っぽい）のスリッパを履く
- ・ 夜は外出しない。昼でも暗がりには避けるようにする
- ・ 座位保持椅子に車輪をつけて小さいときは押していけることができたが、現在大きくなり、逆にその車輪の高さが持ち上げるときにきついため、車輪を外して高さを低くしている
- ・ 食器等は色物を利用する
- ・ 陶器の入れ物を落として足の指を骨折したため、食器類を軽いプラスチックにだんだん変えている
- ・ 食器の一部を食べやすい形のものに変える
- ・ 消化の良い献立にする
- ・ 黒いまな板で調理をする（白っぽい大根を切るとき）
- ・ 食べ物が器と同色だときれいに食べきれないなので、なるべくコントラストのはっきりとする食器の色にする
- ・ 食道が炎症を起して狭くなっているため「刻み食」の状態にしている
- ・ ガスコンロは危険なので、電気コンロにかえる

- ・ 黒いまな板を買い食材を見やすくする
- ・ たえず加湿器をつけ、めがねにはモイスターエイドを取り付け乾燥を防ぐ
- ・ 電気治療器を購入して家の中で治療をする
- ・ 入院時に、ベッド上で洗面ができるようにあらかじめペットボトルに水を汲んでおく
- ・ 帽子を深くかぶり紫外線を予防
- ・ 遮光サングラスを利用
- ・ 風邪予防のため空気清浄、加湿をする
- ・ 肺が苦しいため車椅子を購入
- ・ 散歩中の埃よけ、又室内でのペットの毛が眼に入らないよう、枠のある眼鏡を使用している
- ・ 夜寝る時に、メパチクリアという医療用（眼科）シールを目に貼ることによりドライアイを軽減させる
- ・ 室内を常に加湿し、昼間でも十分に睡眠を取ること
- ・ 目が乾燥し見えにくいので、ぬれたタオルをかけて置く
- ・ 寒い時は眼が乾燥するため、エアコンをなるべく使用せず、コタツを使用する
- ・ 自分で測れるよう音の出るヘルスマーターや体温計を使用する
- ・ サングラスのまわりに、光よけをつけてもらう
- ・ OPE 後、目がまぶしいので、サングラスだけではなく、常に帽子をかぶるようにしている
- ・ 少し汚れた紙オムツを古い歯ブラシで石鹸をつけて水洗いし、それを乾かして再利用する。お尻を洗う時、フトンの上に敷き並べると、水分をよく吸ってくれて、他をぬらすことが少なくなる
- ・ 段差等の危険な所は大きな目印をつける
- ・ 部屋の中をできるだけ明るくする
- ・ 家をバリアフリーに新築
- ・ 段差があるところに塗料で目印をつける
- ・ 階段の一番上に目印をつけてわかるようにする
- ・ 家を新しくし、ガスからオール電化に切り替える
- ・ オール電化にする
- ・ 家の中の段差のところはつまずくため、マット他を敷き、段差をなくす
- ・ コタツ布団で引っかかることがあるため、コタツをとりテーブルとして使用
- ・ 家の中ではカーペットをしいたりして、段差を減らすようにしており、段差のあるところには色違いのマットを敷いている
- ・ ベッドにしている
- ・ 子供がいるため足元に物を置かないよう常に片付けに気を配っている
- ・ 自分の持ち物には輪ゴム等で印をつける
- ・ 家の中にある物の位置を変えない。
- ・ リモコンにオレンジ色のシールを貼るなど、わかりにくいものにシールを貼る
- ・ 食事など器と中身がわかりやすいように色を変える
- ・ 食器の色を識別しやすい色に変える
- ・ 日常使用するものは必ず同じ場所におく
- ・ 家庭内のものは少なくして広く歩けるようにする
- ・ 電子レンジに点字シールを貼り、1人で使用できるようにする

- ・ 尖ったものに黄色のマーキングをする
- ・ 靴を区別しやすいように、目立つものを中に入れておく
- ・ 人にたのまなくても、物を自分でとりやすいように置き場所などを変える
- ・ 物の場所を移動させない
- ・ 手回り品は識別し易いような色、形体を考慮して選んでいる
- ・ 書類などは、クリップの付け方を変えて、つけ方により区別している
- ・ 物の置き場所を変えない
- ・ 自分の手で物の区別がつくように、輪ゴムをしたりする
- ・ 食器など棚に整理して設置
- ・ ベッドやテーブルの上から、物が落ちないように箱をテープで止めたり、S字フックに吊るす
- ・ 介護者が健康被害者が使用するものを安易に移動したり触れないようにし、常に日常生活に必要なものの置き場所を変えないようにする
- ・ パソコンを活用して情報を得る
- ・ 電話やエアコンを音声機能のものに変える
- ・ 携帯でインターネットができるよう手続きした
- ・ 部屋にパソコンなども置き、使いたいときすぐにできるようにする
- ・ 拡大器を購入する
- ・ 手元にはいつも直ぐ利用できるよう、ルーペを置いている
- ・ 家の中では、各所に拡大読書器、拡大ルーペを置いてあり、すぐに使えるようにしてある
- ・ 音声変換付きのパソコンの活用
- ・ ライトや拡大鏡などを利用する
- ・ 電車の時刻をパソコンで検索する
- ・ 伝言を録音する
- ・ ラジオから情報を得、楽しみと教養に役立てている
- ・ 印刷物を読んでもらった時、必要なものについては点字表示のラベルを付けておく
- ・ パソコンの音声環境を新しくする
- ・ 黒い文字盤の時計を使う
- ・ スミ字書類に、シールに点字をメモして貼り付ける
- ・ 洋服や下着等の裏表に目印をつける
- ・ ストレスをためないよう家族との会話、新聞の閲覧、相談を行う等気をつけている
- ・ 洗濯物の仕分けを本人とわかるように糸で点字風に表す
- ・ ATM カードの袋を小さくして (5mm) 取り出しやすく工夫する
- ・ 身の回りの物に鈴など付けて落ちたりした場合のことを考え、錫の大きさを変え、音で判断できるようにしている
- ・ 盲導犬の貸与

【注】国際生活機能分類（ICF）に基づき分類したものを【男女別・年代別の日常生活における工夫について（日常生活の場面ごとの工夫例）】まとめた資料・・・参考1

⑤ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑤-1 新聞や本を読むことの困難さについて

ア 第1・四半期（回答者 53 人）

○第1・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度困難であるかをたずねた結果は、表 2-7 及び図 2-7 のとおり。

□ 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 41.5%、「とても難しい」が 26.4%、「難しい」が 11.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 56 人）

○第2・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度困難であるかをたずねた結果は、表 2-7 及び図 2-7 のとおり。

□ 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 46.4%、「とても難しい」が 25.0%、「難しい」が 12.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 55 人）

○第3・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度困難であるかをたずねた結果は、表 2-7 及び図 2-7 のとおり。

□ 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 43.6%、「とても難しい」が 32.7%、「難しい」が 10.9%となっている

エ 第4・四半期（回答者 51 人）

○第4・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度困難であるかをたずねた結果は、表 2-7 及び図 2-7 のとおり。

□ 新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 52.9%、「とても難しい」が 21.6%、「難しい」が 7.8%となっている

オ 四半期ごとのまとめ

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-7 及び図 2-7 のとおり。

□ 本人がものが見えにくいために新聞や本を読むことの困難さについては、年間の平均では「見えにくいのでやめた」が 46.1%、「とても難しい」が 26.4%、「難しい」が 10.6%となっている

表 2-7 新聞や本を読むことの困難さ

	まったく 難しくない	あまり 難しくない	難しい	とても難しい	見えにくい のでやめた	回答なし	合 計
第1・四半期	0 0.0%	1 1.9%	6 11.3%	14 26.4%	22 41.5%	10 18.9%	53 100.0%
第2・四半期	0 0.0%	1 1.8%	7 12.5%	14 25.0%	26 46.4%	8 14.3%	56 100.0%
第3・四半期	0 0.0%	1 1.8%	6 10.9%	18 32.7%	24 43.6%	6 10.9%	55 100.0%
第4・四半期	1 2.0%	1 2.0%	4 7.8%	11 21.6%	27 52.9%	7 13.7%	51 100.0%
年間単純平均	0.3 0.5%	1.0 1.9%	5.8 10.6%	14.3 26.4%	24.8 46.1%	7.8 14.4%	53.8 100.0%
19年度平均	1.5 2.8%	0.5 0.9%	6.3 11.8%	18.8 35.7%	20.0 37.8%	5.8 11.0%	52.8 100.0%
18年度平均	1.5 2.8%	1.8 3.4%	5.0 9.6%	15.0 28.8%	20.8 39.8%	8.3 15.6%	52.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

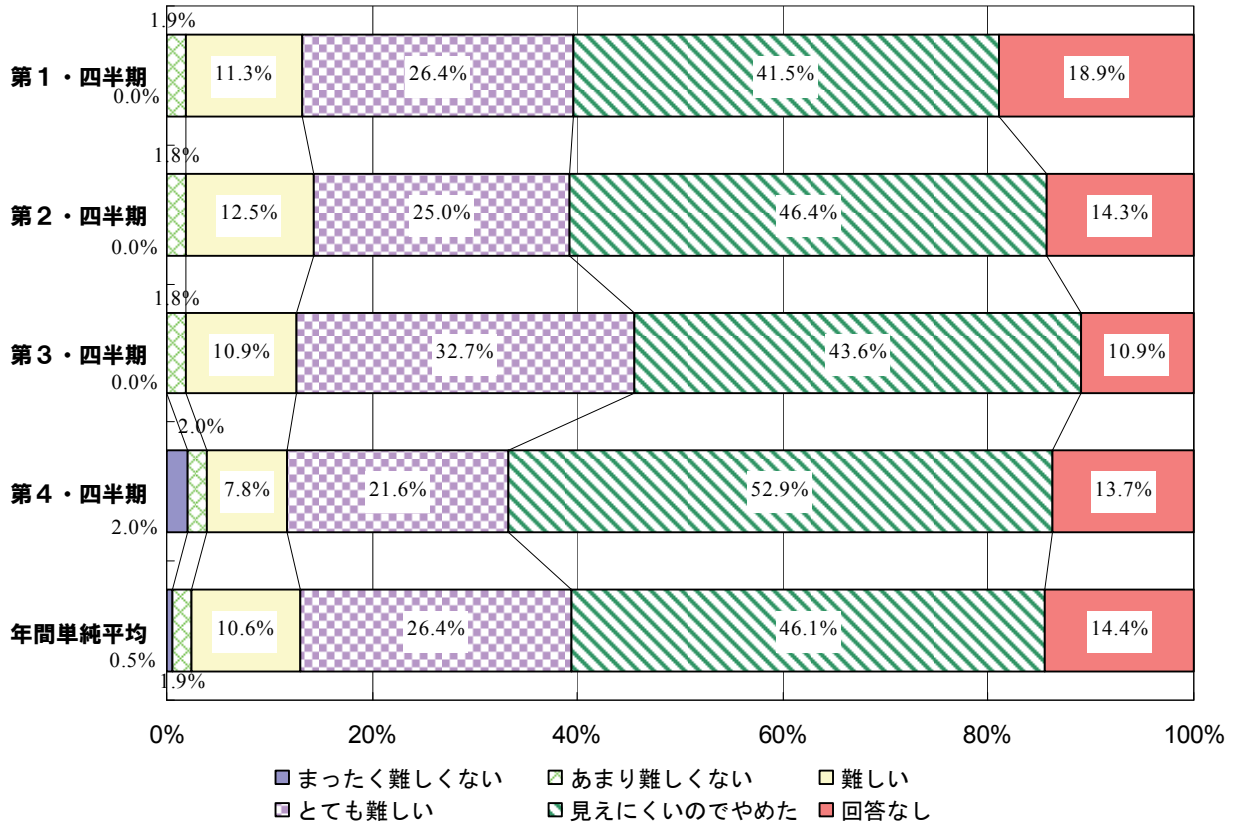


図 2-7 新聞や本を読むことの困難さ

⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について

ア 第1・四半期（回答者 53 人）

○第1・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-8及び図2-8のとおり。

- 目や目のまわりの痛みや不快感については「非常にある」が32.1%、「かなりある」が34.0%、「中くらいある」が17.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者 56 人）

○第2・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-8及び図2-8のとおり。

- 目や目のまわりの痛みや不快感については「非常にある」が39.3%、「かなりある」が21.4%、「中くらいある」が25.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 55 人）

○第3・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-8及び図2-8のとおり。

- 目や目のまわりの痛みや不快感については「非常にある」が36.4%、「かなりある」が25.5%、「中くらいある」が21.8%となっている

エ 第4・四半期（回答者 51 人）

○第4・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表2-8及び図2-8のとおり。

- 目や目のまわりの痛みや不快感については「非常にある」が37.3%、「かなりある」が23.5%、「中くらいある」が23.5%となっている

オ 四半期ごとのまとめ

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-8及び図2-8のとおり。

- 目や目のまわりの痛み・不快感の程度については、年間の平均では「非常にある」が36.2%、「かなりある」が26.1%、「中くらいある」が21.8%となっている

表 2-8 目や目のまわりの痛み・不快感の程度

	非常にある	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	17 32.1%	18 34.0%	9 17.0%	4 7.5%	0 0.0%	5 9.4%	53 100.0%
第2・四半期	22 39.3%	12 21.4%	14 25.0%	6 10.7%	0 0.0%	2 3.6%	56 100.0%
第3・四半期	20 36.4%	14 25.5%	12 21.8%	6 10.9%	0 0.0%	3 5.5%	55 100.0%
第4・四半期	19 37.3%	12 23.5%	12 23.5%	5 9.8%	1 2.0%	2 3.9%	51 100.0%
年間単純平均	19.5 36.2%	14.0 26.1%	11.8 21.8%	5.3 9.7%	0.3 0.5%	3.0 5.6%	53.8 100.0%
19年度平均	17.3 32.7%	14.0 26.5%	12.0 22.7%	5.8 10.9%	0.8 1.4%	3.0 5.8%	52.8 100.0%
18年度平均	18.0 34.3%	14.8 28.6%	10.5 20.2%	2.0 3.8%	2.0 3.8%	5.0 9.3%	52.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

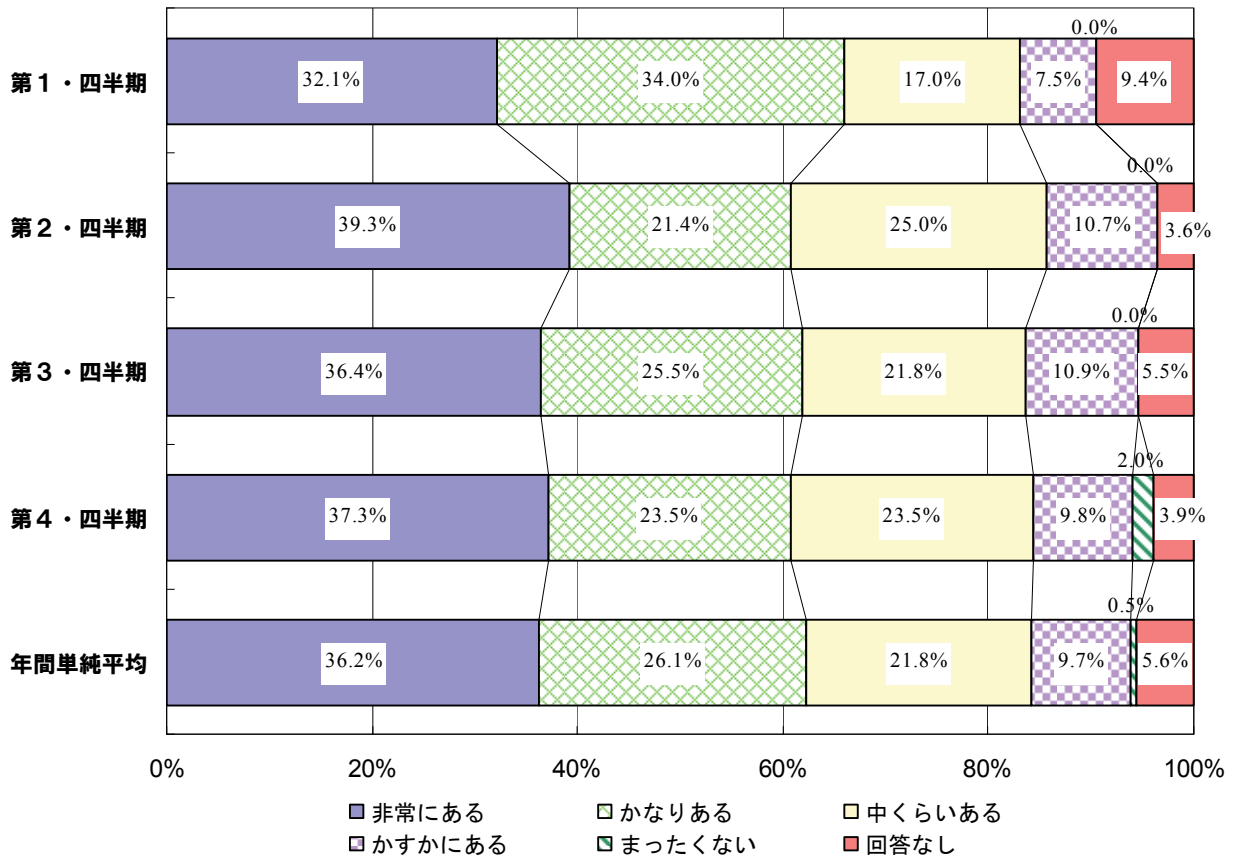


図 2-8 目や目のまわりの痛み・不快感の程度

⑤-3 ものが見えにくいいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

ア 第1・四半期（回答者 53 人）

○第1・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-9及び図2-9のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「非常にある」が60.4%、「かなりある」が20.8%となっている

イ 第2・四半期（回答者 56 人）

○第2・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-9及び図2-9のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「非常にある」が51.8%、「かなりある」が26.8%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 55 人）

○第3・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-9及び図2-9のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「非常にある」が52.7%、「かなりある」が27.3%となっている

エ 第4・四半期（回答者 51 人）

○第4・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表2-9及び図2-9のとおり。

□ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「非常にある」が54.9%、「かなりある」が25.5%となっている

オ 四半期ごとのまとめ

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-9及び図2-9のとおり。

□ものが見えにくいいため物事を思いどおりにやりとげられない場合については、年間の平均では「非常にある」が54.9%、「かなりある」が25.1%となっている

表 2-9 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

	非常にある	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	32 60.4%	11 20.8%	3 5.7%	0 0.0%	1 1.9%	6 11.3%	53 100.0%
第2・四半期	29 51.8%	15 26.8%	5 8.9%	3 5.4%	1 1.8%	3 5.4%	56 100.0%
第3・四半期	29 52.7%	15 27.3%	4 7.3%	4 7.3%	0 0.0%	3 5.5%	55 100.0%
第4・四半期	28 54.9%	13 25.5%	5 9.8%	2 3.9%	1 2.0%	2 3.9%	51 100.0%
年間単純平均	29.5 54.9%	13.5 25.1%	4.3 7.9%	2.3 4.1%	0.8 1.4%	3.5 6.5%	53.8 100.0%
19年度平均	30.5 57.8%	12.3 23.1%	4.3 8.0%	2.3 4.4%	0.5 0.9%	3.0 5.9%	52.8 100.0%
18年度平均	29.5 56.6%	12.5 23.9%	3.3 6.3%	0.8 1.4%	1.3 2.4%	5.0 9.4%	52.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

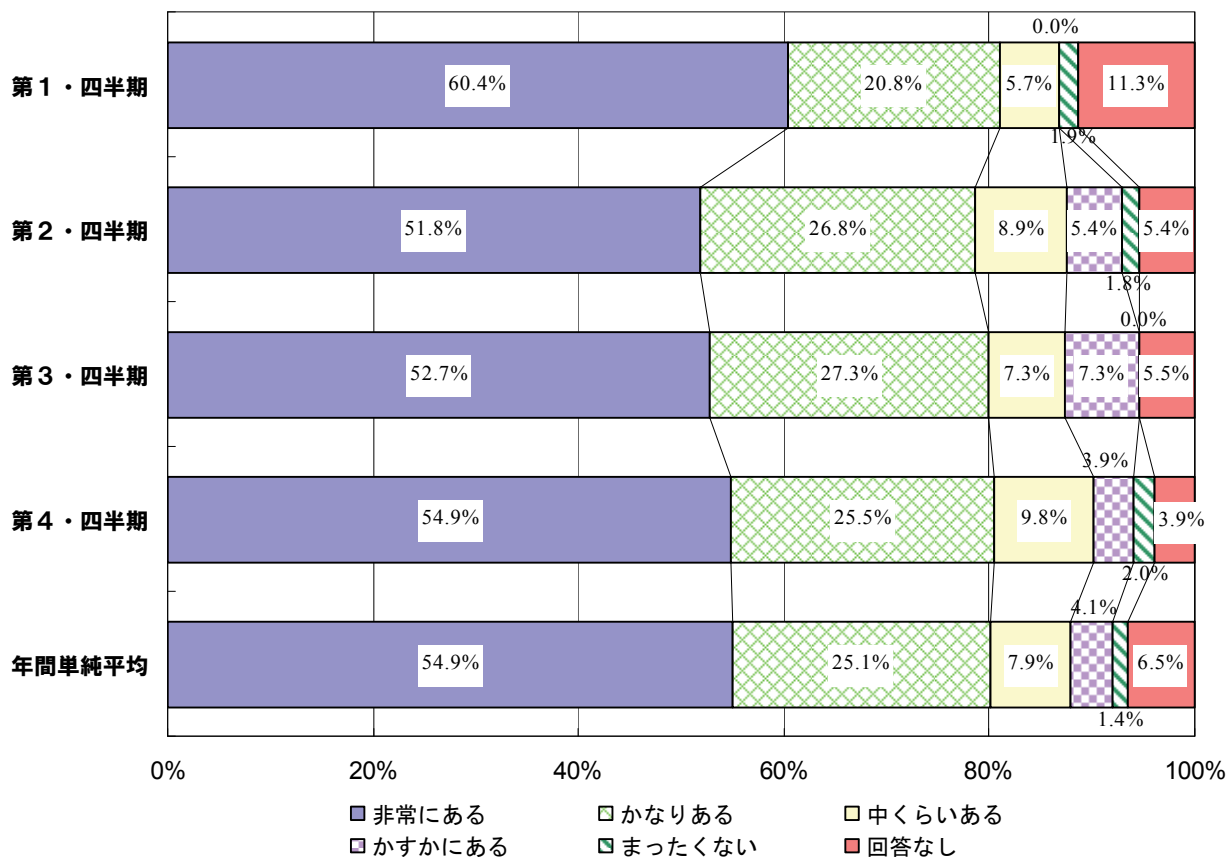


図 2-9 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

ア 第1・四半期（回答者 53人）

○第1・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-10及び図2-10のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「非常にある」が49.1%、「かなりある」が22.6%となっている

イ 第2・四半期（回答者 56人）

○第2・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-10及び図2-10のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「非常にある」が37.5%、「かなりある」が25.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 55人）

○第3・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-10及び図2-10のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「非常にある」が41.8%、「かなりある」が29.1%となっている

エ 第4・四半期（回答者 51人）

○第4・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表2-10及び図2-10のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「非常にある」が41.2%、「かなりある」が31.4%となっている

オ 四半期ごとのまとめ

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-10及び図2-10のとおり。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることの有無については、年間の平均では「非常にある」が42.4%、「かなりある」が27.0%となっている

表 2-10 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

	非常にある	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合計
第1・四半期	26 49.1%	12 22.6%	7 13.2%	3 5.7%	0 0.0%	5 9.4%	53 100.0%
第2・四半期	21 37.5%	14 25.0%	13 23.2%	3 5.4%	2 3.6%	3 5.4%	56 100.0%
第3・四半期	23 41.8%	16 29.1%	8 14.5%	3 5.5%	2 3.6%	3 5.5%	55 100.0%
第4・四半期	21 41.2%	16 31.4%	5 9.8%	5 9.8%	2 3.9%	2 3.9%	51 100.0%
年間単純平均	22.8 42.4%	14.5 27.0%	8.3 15.2%	3.5 6.6%	1.5 2.8%	3.3 6.0%	53.8 100.0%
19年度平均	23.8 45.1%	14.0 26.4%	7.0 13.2%	4.3 8.1%	0.5 0.9%	3.3 6.3%	52.8 100.0%
18年度平均	27.5 52.8%	12.0 23.0%	3.8 7.2%	2.3 4.4%	1.5 2.9%	5.3 9.8%	52.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

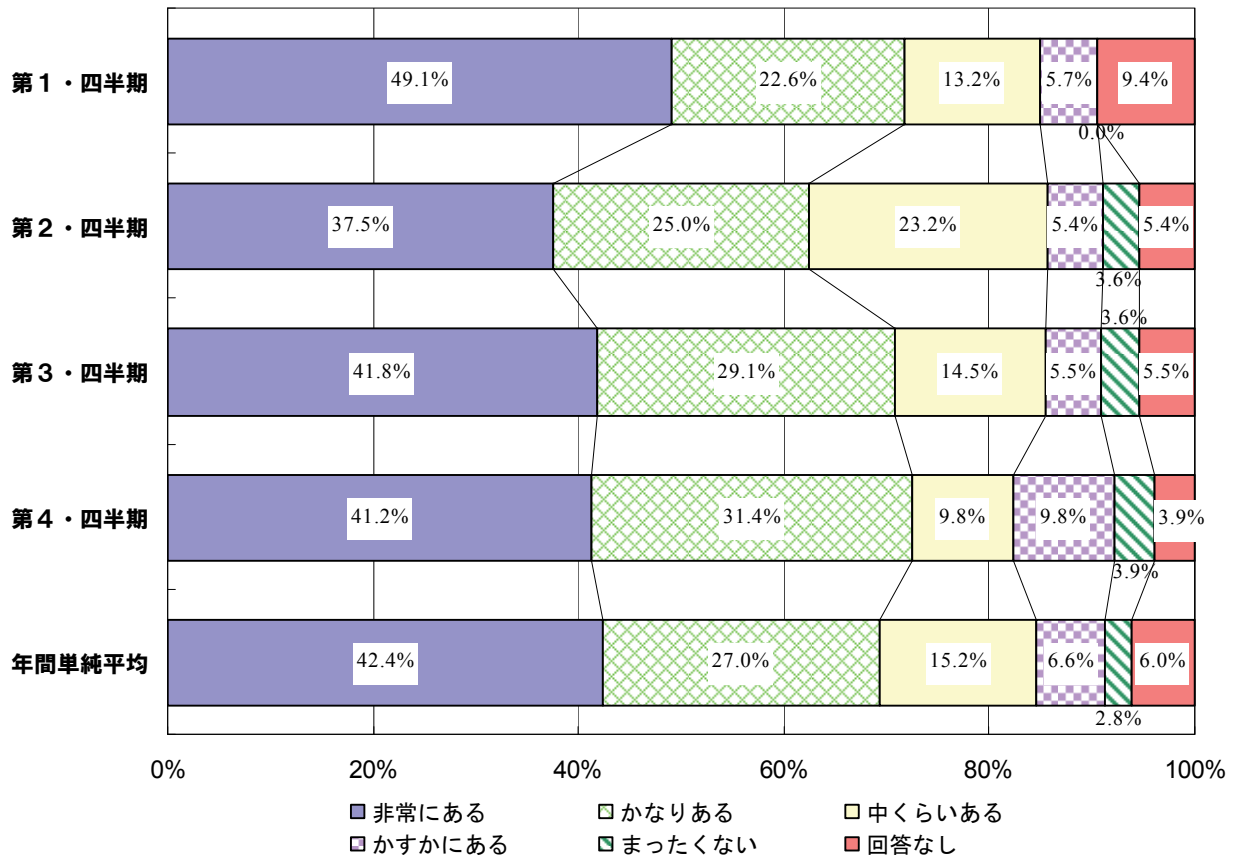


図 2-10 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

⑥ 福祉サービスについて

○本人または介護者にたずねた必要な福祉サービスなどについてのご意見・ご要望等は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

【68件（意見 25件 要望 36件 その他 7件）】

A. 意見 25件

- ・ 別に必要を感じない（どのようなサービスが自分に適しているかわからないので）
- ・ ガイドヘルパーさんの人手不足、又は高齢化になってきています。若い人達の将来が明るく、安心して働くことができるように、長く続くように確保してあげなくては、利用者は気をつかうことも出てくる。ご一考ください
- ・ 視力障害者は一人で外出出来ない。どうしてもヘルパーさんの世話になるのですが、ガソリン値上げ諸々、便乗値上げが響き、外出しにくくなりました。遠慮がちになってしまいます
- ・ 何をしたいのか分からない
- ・ 家族が助けてくれているが利用していない
- ・ 福祉サービスを受けるようになったら、利用したいと思ってます
- ・ どんな福祉サービスがあるかわかりません
- ・ 現在は介護者（夫）がいるため不自由を感じない
- ・ 今は何もお世話になっていないが、今後のことを思うと何らかの形でかかわって頂いて、本人のことを知ってもらい、いざという時に、すんなりと手続きができるようにしておいた方がいいように思っている。でも、その程度のサービスがあるのかわからないので、何をどうしていいかわからない
- ・ 郵便物で重要なものが点字で書いていないことがあり、そのままになっている時がある。
- ・ 今のところは家族で充分手が回っているため、特にありません
- ・ 日常生活用具（福祉器具）の購入で福祉サービスがありますが、「拡大器」を購入し、次に「文書読み上げ装置」の購入を考えていましたが、一点しか対象にならないので、断念しました。説明には記入してなかったので残念です
- ・ どのようなサービスがあるかは自分で調べなくてはならず、福祉サービスをできるだけ利用しないようにしていると感じられる
- ・ 両親と同居しているため必要としない
- ・ 何か、法制とかサービス内容が、何年もたたない間にころころと変わっていくので、ついていくのが大変である
- ・ これまでに利用したことがないのでよくわからない
- ・ サービスを受けたいけど、費用がかかるし、信用できない
- ・ 現在のところ満足しています
- ・ まだまだ書面によるお知らせが多く不便。また3月～4月になると、更新の時期のため、手続きが大変
- ・ 福祉サービスを受けるための書類が多すぎる。ほとんど見えないため、対処するのが大変
- ・ 書類多い、見えないためそれがストレスになる
- ・ 老人ホームに早く入所したい

- ・ 生活援助の時間が足りない。外出する時、ヘルパーさんの車が使えない（すべてタクシーを使わなければならない）
- ・ 出かける時に家族では手が足りないので、ガイドヘルパーさんがいてくれると助かります。田舎で車社会のため不便です
- ・ どのような福祉サービスがあるのかわからない

B. 要望 36件

- ・ デイサービスを受けたいのですが、適当な施設が見つかりません。社協からのケアマネージャーの来家を希望したい
- ・ スーパーで字が見えにくいので、宅配で簡単に物が買えたらいいと思います
- ・ すべての信号に音をつけてほしい
- ・ なるべく引きこもりのないよう外の空気に触れるよう努力したいけれど、月使う時間をもっと増やして欲しい。市によって差がありますが、居住市は減らそう減らそうと進めています
- ・ ガイドヘルパーさんの数が少ない、もっと増えて活用できる時間を増やして欲しい。要介護から要支援になり、等級も厳しくなり、体は悪くなっていく状態なのに逆方向の等級になり困っている
- ・ 介護タクシーについて知りたい
- ・ 視覚障害者が運動できる場所が欲しい
- ・ 少なくとも自分がかかわっている制度やサービスについての書類は、自分で読みたい。自治体等から届く活字の書類を視覚障害者でも自力で読める仕組みが普及定着することを強く希望する
- ・ 日常生活の突発事項にも柔軟・臨機応変に対応できる福祉サービスを強く望む
- ・ 公共交通機関と同等程度の負担で利用できる車輛の普及
- ・ 障害者の所得の底上げが実感できないままの福祉サービス利用料負担について再考して欲しい（健康被害者が障害者である場合）
- ・ 通院介助。移動支援等のガイドヘルプサービス提供事業所の増加・充実
- ・ 発信された1つの情報を心身の状態に合わせた形式に切り替えて入手できるようにして欲しい（活字情報を音声で受け取る、音声情報を活字で受け取る等）
- ・ 福祉と医療の連携を進めて欲しい
- ・ せめて役所からの郵便物は点字で知らせて欲しい。大事な書類を見落とすことが多い
- ・ 点字ブロック、音声信号機をもっと増やして欲しい、また点字ブロックの上を自転車などでふさがなくて欲しい
- ・ 4週に一度、目の保護用ソフトコンタクトを装着し、新しく交換していますが高額であり、保険もききません。医療用として保険の適用を受けられたらと思っています
- ・ 見かけではわかりづらい障害を持つ人が周りに伝えられるものがあるとよい
- ・ 入所施設にと考えても、あまりにも重度のため自宅近くにはなく、遠い所のみ。近くにあればと本当に願います。
- ・ 医療行為が必要であるため、ヘルパーとか他の人にたのめず大変。医療行為の必要な人の介

護をいつでもたのめると本当に助かります。

- ・ 介助者が急病な時に病院の送迎と付き添いに代わりに付き添って連れて行ってくれるサービスがあれば、本当に助かります。病院まで車で1時間かかります。
- ・ あまり情報が得られないので、そういう情報を家庭にもすぐに得られるように、学校や通所など通じて教えて欲しい
- ・ ガイドヘルパー利用料の引き下げ
- ・ ガイドヘルパーを充実させてほしい
- ・ 居住区の緊急介護制度によるガイドヘルパー制度が大変役立っている。福祉サービスの簡素化、削減が計画されているが、存続を期待したい。
- ・ 特に危険を感じることは、歩道での自転車通行が視力障害者にとって大きな不安となっていること！ 自転車専用路 etc、真剣に検討して欲しいものです
- ・ メディカルユース（治療用）コンタクトレンズの保険適用を強く望みます
- ・ 保護用のコンタクトレンズを保険適応又は行政の障害者のための補助具に指定して欲しい
- ・ 通院に際し、ヘルパーさんの付き添い時間が短いため、自分でタクシーを手配して出かけることがあるが、物に引っかかりつまずいたりして危ない。ヘルパーの付き添い時間を長くして頂きたい
- ・ 介護タクシーをもっと使いやすくして欲しい
- ・ 眼を保護するソフトコンタクトレンズについて補助して欲しい
- ・ もう少し、視覚障害があっても受け入れてくれるサークル等があると良いと思います
- ・ ヘルパーの利用を考えています。食事作りが大変なもので、介助して欲しい
- ・ ガイドヘルパーの自己負担（一割）をなくしてほしい
- ・ 社会参加のために音声パソコンを使用しているが、トラブル発生時に修理・修正が一人でできないので、視覚障害用パソコン機器の知識のあるスタッフの育成をして、訪問サポートを公的な機関でして、費用の補助もしてほしい
- ・ ケアマネージャーを活用したい
- ・ 掃除一般を受けたい

C. その他 7件

- ・ 短期入所の場所は、情報として得るべきである
- ・ 精神・神経、視力障害がひどく歩くこともできず、食事も一人でできません。介護を私と主人で一生懸命しておりますが、私たちも高齢ですの疲れの反動で息苦しくなり、寝込んでしまう状況の毎日です
- ・ 冬になり、家族が買って来てくれた灯油が買いに行けなくて困っている（同居する家族が減ったため）。区役所に相談したが、家事援助で重いものは難しいといわれ困っている
- ・ 治療中のため、施設等の福祉サービスを受ける心構えがまだできていない状態です
- ・ なにかにつけてサポートしていくことが大事だし、本人が生きていく上で、絶対必要だと思います。介護者のストレス又はサポートする時間、介護者自身の生活が大変になっていると思います。これからのことを考えると、出口の見えないトンネルみたいでどうしたらいいんだろうと思うときがあります。

- ・ お世話になっても、遠慮したり、我慢したりしながらだとかわいそうに思い、できるだけ家で自由にさせてやりたいと思っています。しかし、もし私が病気になった時などのことを考えると、かえって不安にもなります
- ・ 施設を離れて社会復帰を目指します。公的な援助や地域に受け入れられるかなど不安でいっぱいです

【注】意見・要望等に分類したものを【男女別・年代別の福祉サービスについて】まとめた資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・参考2

(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要

■ 過去1年間の日常生活について

① 困ったことの有無

○ 過去1年間における困ったことの有無については、表3-1及び図3-1のとおり。

□ 78.2%の人が過去に困ったことがあったとしており、なかったとする人は5.5%となっている

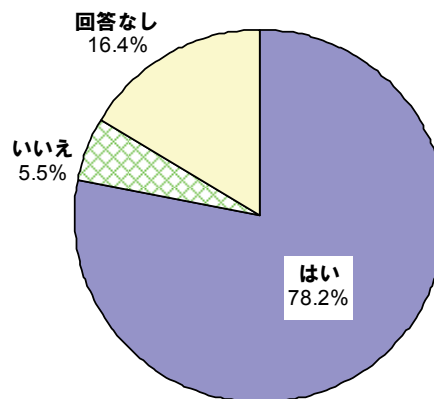


表3-1 困ったことの有無

はい	いいえ	回答なし	合計
43	3	9	55
78.2%	5.5%	16.4%	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

図3-1 困ったことの有無

①-1 困ったことについて

○①で「はい」と回答した本人または介護者にたずねた具体的な「困ったこと」の内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

○国際生活機能分類（ICF）（1. 心身機能、2. 身体構造、3. 活動、4. 参加、5. 環境因子、6. その他）に基づき分類している。

【52件（心身機能 26件、活動 13件、環境因子 13件）】

1. 心身機能 26件

- ・ 視力障害1級なので、外出しても景観、物体すべてが暗の中。家事の手助けもできないので、情けない限りです
- ・ 人ごみを歩く時、視野が限られているので、人とぶつかってしまう
- ・ 病院の窓口等で書類のやりとりや、物を落とした時に探すのが困難
- ・ 外出先の段差がほとんどわからず、ころんだり、つまずいたりする
- ・ 印刷物を自分では読めません
- ・ 見えないということが全てにおいて困っています
- ・ なみだが出ないためゴーグル等をかけないといけない（保湿のため）
- ・ 目の病気になりやすい
- ・ 買物の値段が見えない
- ・ 視力低下のため外出時、ときに危険を感じる
- ・ 障害の中で視力障害が一番肉体的・精神的にきついと思う。日常生活で困ることばかりだと

思う

- ・ 目の不快感は当然のことながら、治療のために大量使用したステロイド剤の投与で、腎臓機能の低下が進行しており、将来が不安になる
- ・ 買物の時の商品の価格や時刻表が見にくい
- ・ 夜体調が悪く中々眠らず、結局抱いて一夜を過ごすことがあります。たまになら良いのですが、3日も続くと具合が悪くなります
- ・ 夜道で人や物にぶつかってケガをした
- ・ お金や物を落とした時見つけられない
- ・ 全く視力がないのであらゆる場面で困る
- ・ 食事をする時、何がどこにあるか、何を食べているかわからない
- ・ どんな洋服を着ているのか等、着替えをする時困る
- ・ 買物のとき、料金が見えなかったり、どこに何があるかわからない
- ・ 車椅子で外出の際お尻が椅子の外に出て、本人が不安のためか、痙攣のようにひきつり、1時間ほど往生した

3. 活動 13件

- ・ 急用時に外出ができなかった（一人で居る時）
- ・ 小さな段差や床にタイル等がしいてあると、どこが境かわからず、非常に歩きづらい
- ・ 自転車歩道に止まっていたり、スピードで横を通るとき危ない
- ・ 持ち物（眼鏡など）の外出先での紛失
- ・ 入院中に他の病院の受診日に行くことができなかった
- ・ 電車のホームが直前になって変更になった
- ・ 歩道が狭く、電柱や車、自転車で途中通れなくなってしまったこと
- ・ 歩道が片側へ傾いて車椅子で通るのが大変だった
- ・ 外出したいと思う時に自由に出られない
- ・ 買物
- ・ 文字の読み書きができないことで新しい本が読めない
- ・ 体調が安定せず、約束等を守れない（予定をたてられない）
- ・ 風呂に入れるとき母の手がかたく動かなくなり、急遽、手伝いの人に代わってもらった

5. 環境因子 13件

- ・ 介助者が必要な時に誰もいないとき一番困る
- ・ 外出する時介助者が必要なこと
- ・ 外出に介助者が必要なこと
- ・ 金融機関などで代筆を断られたこと
- ・ 買物に行った時は介助者が必要
- ・ 本人がだんだん大きくなって体重も増えてきたが、全介助の上に、家が階段しかない団地であること（3F）

- 目を保護するために使用しているソフトコンタクトレンズ費用が高くて払えない
- 外出時に目印が変わり道に迷ったとき
- 急に病院へ行きたい時、介護者がいない時
- 病名が SJS であると答えると、やはり薬などを出すのを困った顔をする。医者の中には薬を出してくれないことがある
- 買物や散歩等で外出する際に介助者が必要なこと
- 初めての通院や買物で外出する際に介助者が必要なこと
- バスが行先を言い終わらないうちに発車してしまうので、希望のバスに中々乗れない

【注】国際生活機能分類（ICF）に基づき分類したものを【男女別・年代別の困ったことについて】まとめた資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・参考3

①-2 解決策の有無

- 困ったことがあったとする人に、解決策の有無についてたずねた結果は、表 3-2 及び図 3-2 のとおり。
- 72.1%の人が困ったことの解決が図られていないと回答しており、解決したとする人は 14.0%となっている

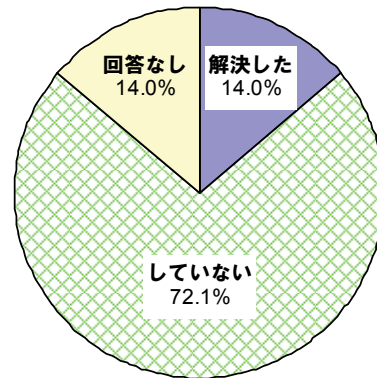


表 3-2 解決策の有無

解決した	していない	回答なし	合計
6	31	6	43
14.0%	72.1%	14.0%	100.0%

図 3-2 解決策の有無

注：上段は人数、下段は割合

①-3 解決策について

- ①-2で「解決した」と回答した本人または介護者に、それはどのような方法で解決したのかについての「解決策」の内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。
- 国際生活機能分類（ICF）（1. 心身機能、2. 身体構造、3. 活動、4. 参加、5. 環境因子、6. その他）に基づき分類している。

【16件（活動 1件、環境因子 15件）】

1. 活動 1件

- ・ 障害の中で視力障害が一番肉体的・精神的にきついと思う。日常生活で困ることばかりだと思う→**工夫して自分でできる限りは行っていた**

5. 環境因子 15件

- ・ なみだが出ないためゴーグル等をかけないといけない（保湿のため）→**ゴーグルを常にかけることとする**
- ・ 外出先の段差がほとんどわからず、ころんだり、つまずいたりする→**介護者の手がはなせない**
- ・ 外出する時介助者が必要なこと→**身内の人と外出することで外出ができる**
- ・ 入院中に他の病院の受診日に行くことができなかった→**家族が代わりにいって病状を説明した**
- ・ 買物の値段が見えない→**10倍ルーペの活用、そばの人に聞く**

- ・ 電車のホームが直前になって変更になった→**駅員さんなどに手伝ってもらい歩道橋を使い向かい側へ渡った**
- ・ 外出に介助者が必要なこと→**私だけでは大変なので子供や夫に協力（子供や夫が休みのときだけ）**
- ・ 買物の時の商品の価格や時刻表が見にくい→**人に聴いてみた**
- ・ 買物に行った時は介助者が必要→**友達にガイドヘルパーとして同伴してもらった**
- ・ 外出時に目印が変わり道に迷ったとき→**人に尋ねる**
- ・ 急に病院へ行きたい時、介護者がいない時→**その時はどうしようもないので、介護者がいるときまで我慢し、病院にいった**
- ・ 買物のとき、料金が見えなかったり、どこに何があるかわからない→**店の人に介助を頼む、ルーペ等を使う**
- ・ 文字の読み書きができないことで新しい本が読めない→**地域のボランティアグループに代読を依頼した**
- ・ 買物や散歩等で外出する際に介助者が必要なこと→**身内の者や友人に同伴してもらうことで解決できた**
- ・ 車椅子で外出の際お尻が椅子の外に出て、本人が不安のためか痙攣のようにひきつり、1時間ほど往生した→**周囲の人がみな寄って助けてくれた**

【注】国際生活機能分類（ICF）に基づき分類したものを【男女別・年代別の解決策について】まとめた資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・参考4

①-4 解決方法について

○①-2で「解決していない」と回答した本人または介護者に、それはどのような方法で解決できると思うかについての「解決方法」は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

○国際生活機能分類（ICF）（1. 心身機能、2. 身体構造、3. 活動、4. 参加、5. 環境因子、6. その他）に基づき分類している。

【13件（心身機能 6件、活動 4件、環境因子 3件）】

1. 心身機能 6件

- ・ 視力障害1級なので、外出しても景観、物体すべてが暗の中。家事の手助けもできないので、情けない限りです→**角膜移植手術でわずかの望みはありますが、今は体調が万全ではないので望み薄しです**
- ・ 人ごみを歩く時、視野が限られているので、人とぶつかってしまう→**解決できないと思う（一人で行動するとき）**
- ・ 病院の窓口等で書類のやりとりや、物を落とした時に探すのが困難→**人が来るのを待つて解決する**
- ・ 障害の中で視力障害が一番肉体的・精神的にきついと思う。日常生活で困ることばかりだと思→**できないところは他の人をお願いするしかないかな？**
- ・ 目の不快感は当然のことながら、治療のために大量使用したステロイド剤の投与で、腎臓機能の低下が進行しており、将来が不安になる→**少しでも進行を遅らせるため、食事に気をつけることしかないと思います**
- ・ 全く視力がないのであらゆる場面で困る→**家族、区の福祉サービス、パソコンの利用、盲導犬 etc で、いくつかの点は解決し、次善の生活をするようにしている**

3. 活動 4件

- ・ 急用時に外出ができなかった（一人で居る時）→**治療により視力が戻ること**
- ・ 持ち物（眼鏡など）の外出先での紛失→**通院のたびに持参する持ち物（点眼、治療用眼鏡）が多すぎるため、本人の自覚を持つとともに、バッグ等の収納方法について工夫が必要と思う**
- ・ 歩道が狭く、電柱や車、自転車で途中通れなくなってしまったこと→**道路の整備をして欲しい。京都は昔からのところが多く、観光地であっても車椅子の人にとって大変な所が多い**
- ・ 買物→**ヘルパーの増員**

5. 環境因子 3件

- ・ 本人がだんだん大きくなって体重も増えてきたが、全介助の上に、家が階段しかない団地で

あること（3F）→引越しするしかないのだが、仕事の都合上、なかなか引越しできない

- ・ 目を保護するために使用しているソフトコンタクトレンズ費用が高くて払えない→**コンタクトレンズを治療として使用する場合、保険などで助成してほしい**
- ・ バスが行先を言い終わらないうちに発車してしまうので、希望のバスに中々乗れない→**バスの行先案内のアナウンスを経由地と目的地のみにしてもらう**

【注】国際生活機能分類（ICF）に基づき分類したものを【男女別・年代別の解決方法について】まとめた資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・参考5

② 新しい発見や気分転換の有無

○ 介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 3-3 及び図 3-3 のとおり。

□ 「あった」とする人は 20.0%となっており、43.6%の人が「なかった」としている

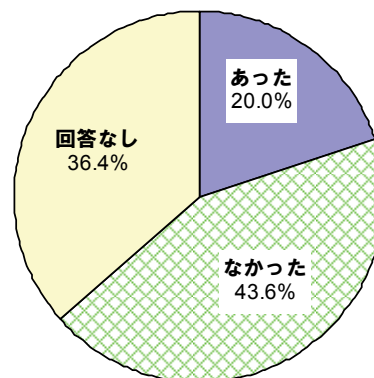


表 3-3 新しい発見や気分転換の有無

あった	なかった	回答なし	合計
11	24	20	55
20.0%	43.6%	36.4%	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

図 3-3 新しい発見や気分転換の有無

②-1 新しい発見や気分転換について

○②で「あった」と回答した本人または介護者にたずねた具体的な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 介護は受けていない
- ・ 周囲の状況、風景を説明して、安心感を与える
- ・ あった、なかったでは答えられません。次々といろいろなことがありますので、気は休まることなしです
- ・ 花が大好き、見難い眼で匂いをかぎ、いやされたい
- ・ 孫が生まれて、生き甲斐ができました。ペットの世話も癒されます
- ・ 友人がたくさんできて外出が増えた
- ・ 毎日毎日 32 年間、昼、夜オムツを替えながら、人間最高の「いき」を悟ったことでした。それは華やかなものではないが、幸せです
- ・ 外出の際、皆に親切にされ、手助けされる機会が多かった。友人たちとよくおしゃべりをする
- ・ 外出、散歩でなるべく人通りの少ないところ、すいている場所、時間帯を選び、ゆっくり歩けたこと、日に当たり、風に当たり、咲いている花の説明を受けたり楽しい
- ・ 入浴の時
- ・ 本人が学校で勉強を学んだり、成長を感じられたこと
- ・ 気力を安定させながら精神的バランスを量っている
- ・ 色々なことで自信をつけるためにウォーキングをしている
- ・ パソコンの音声ソフトを新たに購入し読書の楽しみができた

③ 日常生活の満足度

○ 過去1年間の日常生活における満足度についてたずねた結果は、表3-4及び図3-4のとおり。

- 「満足できなかった」が29.1%、「やや満足できなかった」が9.1%、「どちらともいえない」が34.5%となっている
- 「満足できなかった」を1点、「満足」を5点とすると平均は2.5点である

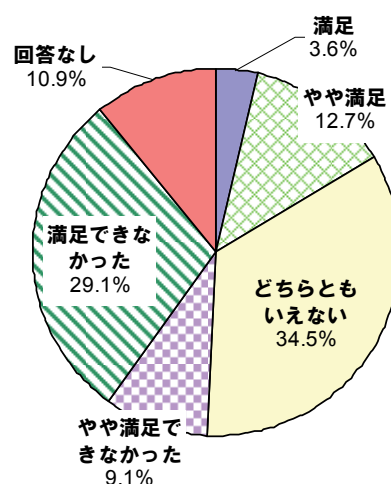


図3-4 日常生活の満足度

表3-4 日常生活の満足度

満足	やや満足	どちらともいえない	やや満足できなかった	満足できなかった	回答なし	合計
2	7	19	5	16	6	55
3.6%	12.7%	34.5%	9.1%	29.1%	10.9%	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

③-1 満足度の理由について

○ ③の回答に至った具体的な理由の満足度別の内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

【満足：5点】 2件

- ・ 盲学校の教師として教壇に立て、1年間満足して日々過ごせた
- ・ 言葉はなくても、本人が母がいることで安心しているようで、彼女の表情が明るくなってきたこと（32年間の悲しみの果です）

【やや満足：4点】 5件

- ・ 外出では、ほぼ満足のいく程度の外出支援を受けた
- ・ 自分でできることが少なくなってきた
- ・ ヘルパーさんをお願いするようになり、助かる部分もあるが、時間の問題や、やはり気兼ねがあり、依頼しづらい面もある
- ・ 初孫の存在
- ・ 困ることも多いが生きている

【どちらともいえない：3点】 15件

- ・ 生活には一長一短あるから
- ・ 常に障害がついてまわっている

- ・ 思い通りにいかないこともあるが、それなりに安定した日常生活ができています
- ・ 健康状態に変化がなかったこと
- ・ 視力低下を悔やまず、弱視の生活の喜びを探したい
- ・ 特に長く寝込むことはなかったが、新しい発見や希望が持てたわけでもなかった
- ・ 視覚から入ってくる情報は全く得られない
- ・ 眼は良く見えなくても、色々な人達に助けられ、楽しく過ごせるから
- ・ 行動範囲が狭くなり、仕方がないと気持ちを決めてその場を乗り切る
- ・ 自分の身のまわりの事くらいは自分で出来るのであまり不便を感じない
- ・ 健康被害者に何の変化がないため
- ・ 本人にもっとリハビリする必要があるのだが、なかなか仕事をしていて、それができないことが残念である
- ・ 外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じるが
- ・ 手術のため遠距離の病院への入院、通院等は体力的にも経済的にも負担になるが、最新医療が地域で受けられないことが困っている
- ・ 愛情を注ぐとその分感情が豊かになり、返事もしてくれ、喜びもあるのだが、要求も強くなり、負担も増えた

【やや満足でない：2点】 4件

- ・ 日常的に続く目の痛みとそのケア、時間など生活に大変負担がかかります
- ・ 一定程度社会参加はできたが、自分の思い描くほどは行動できなかったため
- ・ 体調不安定で過ごす日が多かった
- ・ 手を引いてくれる人が認知症になったため

【満足できなかった：1点】 13件

- ・ 毎日、常に目の痛みとの戦いが続いている。そのため、精神的に疲労している
- ・ ヘルパーさん etc とてもよくして頂いているが、まだまだ満足いくことはできず、年齢を重ねることに老化も感じ、見えない不自由さにプラスして感じる
- ・ 係の方は太陽の明るさ、電灯の明るさがわかりますが、その判別ができる程度です。お察しください
- ・ 一人で外出できない
- ・ 自分で自由に行動したい
- ・ プライバシーがない
- ・ どこに行っても回りがわからず、気分転換になりません
- ・ 視力障害という最も大切な部分の障害で、その克服の難しさを痛感しております
- ・ 目が（視力も）安定せず、入院生活が多かった
- ・ なみだがでないことで、何事もこわくて行動できない
- ・ 外出する際など、周囲に対していつも不安感や不便さを感じている
- ・ 不安がある、生きがいが見つけられない
- ・ 体調が安定しないから、精神的安定も得られない

④ 日常生活を満足するために一番やりたいことについて

○ 日常の生活に満足するために一番やりたいことの具体的な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

○ 国際生活機能分類（ICF）（1. 心身機能、2. 身体構造、3. 活動、4. 参加、5. 環境因子、6. その他）に基づき分類している。

【42件（活動 33件、環境因子 3件、その他 6件）】

3. 活動 33件

- ・ 本や新聞を読むこと
- ・ 裁縫をすること
- ・ 庭木の手入れをすること
- ・ 新聞と読書すること
- ・ 自由に外出すること
- ・ 旅行に行きたい
- ・ 外出を一人でしたい
- ・ 映画やテレビや本を読みたい
- ・ 物が見つけにくいので整理整頓
- ・ 普通の生活
- ・ 旅行や趣味の充実
- ・ 旅行、買い物
- ・ 気軽に旅行をしたい
- ・ 花大好き、園芸
- ・ 何らかの形での就業
- ・ バイト
- ・ 旅行に行っているところを見たり、おいしいものを食べたりしたい
- ・ 友達と遊びたい
- ・ じっくり自分で選んで買物がしたい
- ・ 少し前までは何とかパソコン画面が見えていたので小説を書いていたが、最近は全く見えていないため、見えるようになって続きを書いて、1冊の本に完成させたいと思います
- ・ 仕事
- ・ 寝たきりのため、できるだけ体を清潔にしてやること
- ・ 気軽に外食したい
- ・ 読書を容易にできるようにしたい
- ・ リラックスできる時間をつくりたい
- ・ 趣味、パソコンなどのスキルを up したい
- ・ 治療院開業
- ・ 趣味のブライダルダンスで優勝すること
- ・ 一人で外出したい

- ・ 映画やテレビを見たい（音声解説付）
- ・ 気軽に旅行したり散歩がしたい
- ・ 経済的自立をした上で趣味の音楽や旅行をしたい
- ・ 気軽に外出できるようになりたい

5. 環境因子 3件

- ・ 目が見えるようになるための手術
- ・ 目の痛みが取れる治療法と視力の回復
- ・ 公共交通機関をもっと利用しやすくしてほしい

6. その他 6件

- ・ 介護者自身の生活も大切にすること
- ・ 生活の安定とリハビリの必要性
- ・ 元の身体に戻りたいです
- ・ 人の迷惑にならない生活がしたい
- ・ 一般の家庭生活
- ・ 普通のことができるようになりたい

【注】国際生活機能分類（ICF）に基づき分類したものを【男女別・年代別の日常生活を満足するために一番やりたいことについて】まとめた資料・・・・・・・・参考6

④-1 実現可能性

○ 日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性についてたずねた結果は、表3-5及び図3-5のとおり。

□ 「できると思う」が5.5%、「ややできると思う」が12.7%となっている

□ 一方、「できないと思う」が23.6%、「ややできないと思う」が12.7%となっている

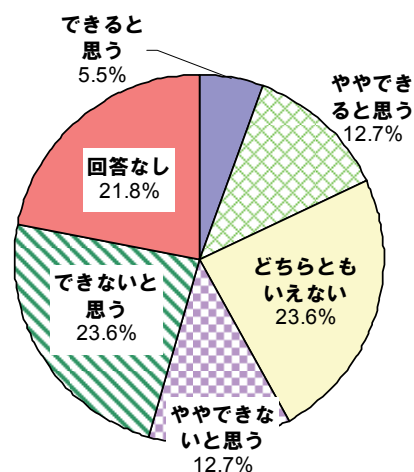


図3-5 実現可能性

表3-5 実現可能性

できると思う	ややできると思う	どちらともいえない	ややできないと思う	できないと思う	回答なし	合計
3	7	13	7	13	12	55
5.5%	12.7%	23.6%	12.7%	23.6%	21.8%	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

④-2 実現可能性の理由について

○ ④-1の日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性及びその理由の具体的な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

【できると思う】 2件

- ・ 正しいことであるから
- ・ 実現できないと皆が困るから

【ややできると思う】 7件

- ・ 基礎練習が充実してきた
- ・ 音声解説を付けるボランティアグループが増えてきた
- ・ 体調も安定して、車椅子だけど、少しは歩くことができるので、行けると思う
- ・ 家事代行サービスや妹・友人・娘に頼む
- ・ 本人や家族の協力の意思が得られやすい
- ・ お金があれば実現出来ると思う
- ・ 移動する際の交通機関利用時などにサポートしてくれる身内又は友人等で気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う

【どちらともいえない】 9件

- ・ 今の生活を大きく変えられないから

- ・ パソコン（視覚障害者のための指導）の指導が中々十分に受けられていない
- ・ 体力がない。目が疲れ
- ・ 医療の発展によるものだから
- ・ 理想があって現実のある生活
- ・ 視力障害、呼吸器の状態が不安定なため
- ・ 介助者があればできると思うが、介助者や時間的な余裕がない
- ・ 介護してあげる時間が充分に取れてないため
- ・ 今のところ、まだ生活の安定ができていないから

【ややできないと思う】 7件

- ・ 1人で外出するには危ないため
- ・ 移動や友達と同じく行動できない
- ・ これ以上視力が上がるとは思えないから
- ・ 障害者を受け入れる企業が少ない
- ・ 視力が元通りになれば良い
- ・ 信頼できる同伴者がいない
- ・ ほとんど介護しているので、子離れができない

【できないと思う】 12件

- ・ 目が見えないし、お金もないから
- ・ 全盲、両目とも見えなくなり、視力障害1級なので物体の判別すらできないことです
- ・ 知らないところへ行くとすごく疲れる
- ・ 足元が危ない
- ・ 以前はもう少し見えていたが、今はほとんど見えにくい
- ・ 目が見えないということは、耳を働かせるだけのつらさに、面倒になる。でも気持ち的には明るく前向きである
- ・ 目の治療（手術）の進歩が進んでいないと思う
- ・ 満足などできない
- ・ 見えないから
- ・ 全盲になってしまったから
- ・ 見えないから

⑤ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答）

○ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動の内容については、表 3-6 及び図 3-6 のとおり（複数回答）。

- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 66.0%、「旅行・キャンプ・つりなどへの参加」がともに 48.9%、「ボランティアなどの社会活動」が 27.7%となっている
- その他としては「ペットの世話」などをあげている

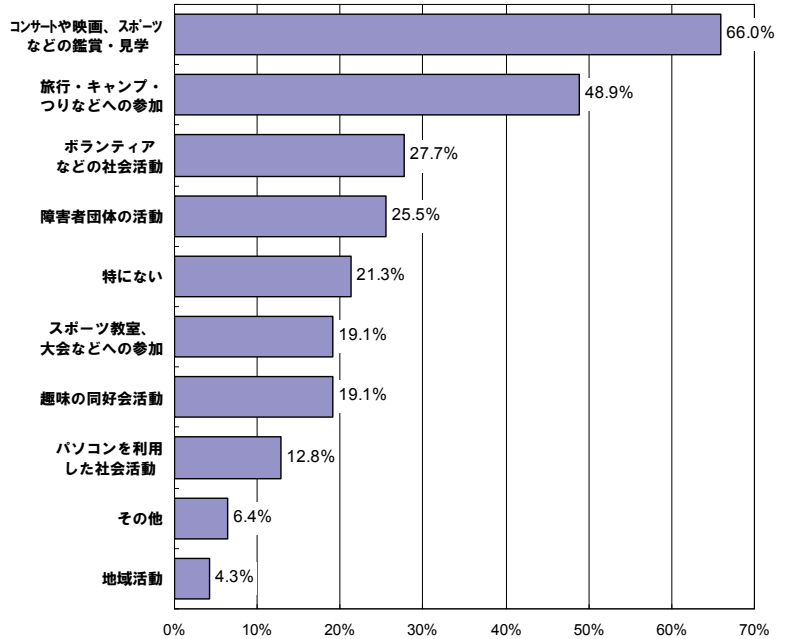


図 3-6 今後やってみたい活動等について

表 3-6 今後やってみたい活動等について

コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどへの参加	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会活動	特になし	その他	回答者数
31	9	23	9	13	12	2	6	10	3	47
66.0%	19.1%	48.9%	19.1%	27.7%	25.5%	4.3%	12.8%	21.3%	6.4%	—

注：上段は人数、下段は割合

■ 福祉サービスについて

⑥ 福祉サービスを受けるための相談相手について（複数回答）

○福祉サービスを受けるために現在または将来主に誰と相談するかについてたずねた結果は、表 3-7 及び図 3-7 のとおり（複数回答）。

- 「公的機関の職員」が 56.6%、以下、「配偶者」が 34.0%、「障害者団体」が 30.2%となっている
- その他としては「医療ソーシャルワーカー」などをあげている

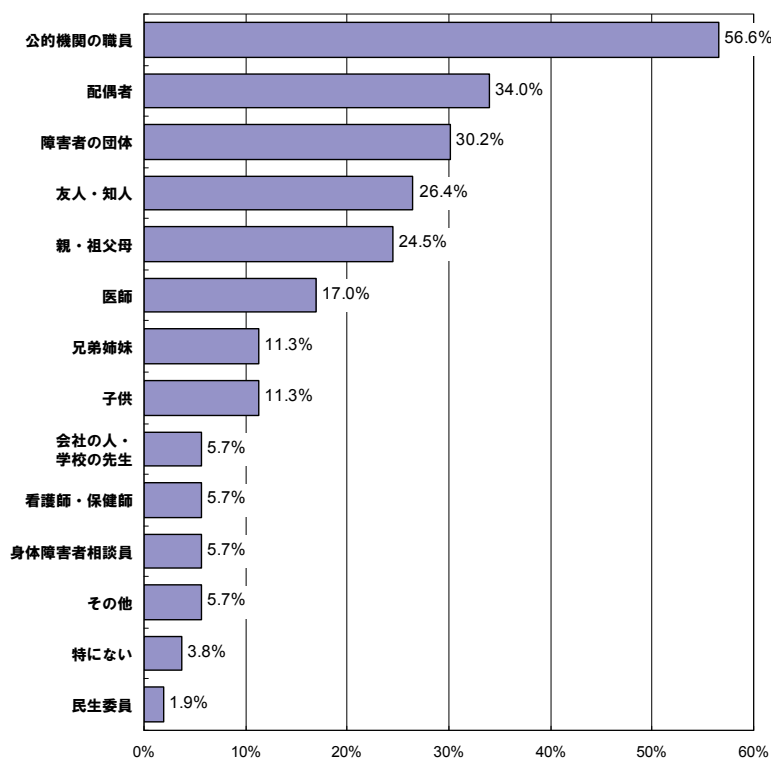


図 3-7 福祉サービスの相談相手について

表 3-7 福祉サービスの相談相手について

親・祖父母	兄弟姉妹	配偶者	子供	友人・知人	会社の人・学校の先生	医師	看護師・保健師
13	6	18	6	14	3	9	3
24.5%	11.3%	34.0%	11.3%	26.4%	5.7%	17.0%	5.7%
公的機関の職員	民生委員	身体障害者相談員	障害者の団体	特にない	その他	回答者数	
30	1	3	16	2	3	53	
56.6%	1.9%	5.7%	30.2%	3.8%	5.7%	—	

注：上段は人数、下段は割合

⑦ 必要な福祉サービスについて（複数回答）

○ 必要と感じている福祉サービスについてたずねた結果は、表 3-8 及び図 3-8 のとおり（複数回答）。

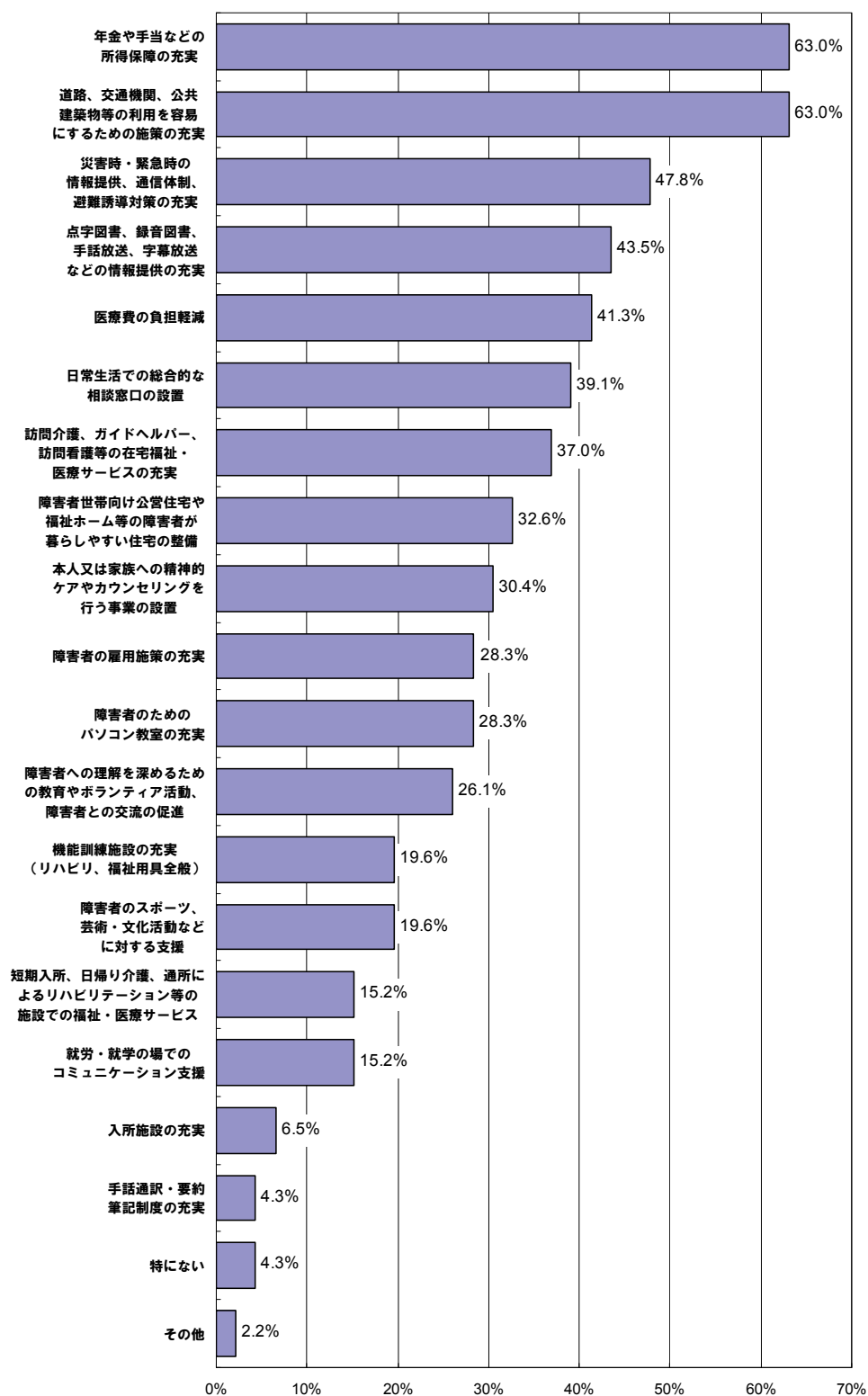


図 3-8 必要な福祉サービスについて

表 3-8 必要な福祉サービスについて

障害者世帯向け公営住宅や障害者の暮らしやすい住宅の整備	障害者の雇用の充実	短期入所、日帰り介護、通所リハビリテーション等の福祉・医療サービス	訪問介護、ガイドヘルパー、訪問看護等の在宅福祉サービスの充実	入所施設の充実	機能訓練施設の充実（リハビリ器具等）	日常生活の総相口の充実	本人又は家族への精神的ケアやセリウング事業の設置	年金や手当などの所得保障の充実	医療費の負担軽減	道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実
15	13	7	17	3	9	18	14	29	19	29
32.6%	28.3%	15.2%	37.0%	6.5%	19.6%	39.1%	30.4%	63.0%	41.3%	63.0%
点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送などの情報提供の充実	手話通訳・要約筆記制度の充実	障害者のためのパソコン教室	障害者のスポーツ・芸術・文化活動に対する支援	災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実	障害者への理解を深めるための教育やボランティア活動、障害者との交流の促進	就労・就学・就学でのコミュニケーション支援	特になし	その他	回答者数	
20	2	13	9	22	12	7	2	1	46	
43.5%	4.3%	28.3%	19.6%	47.8%	26.1%	15.2%	4.3%	2.2%	—	

注：上段は人数、下段は割合

- 「年金や手当などの所得保障の充実」及び「道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実」が 63.0%となっており、以下「災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実」が 47.8%、「点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送などの情報提供の充実」が 43.5%、「医療費の負担軽減」が 41.3%となっている
- その他の必要と感じている福祉サービスとしては、「歩道の整備」があげられている

⑧ 必要な情報について（複数回答）

○ 現在必要な情報についてたずねた結果は、表3-9及び図3-9のとおり（複数回答）。

- 「医療」が41.7%、以下「福祉サービス」が37.5%、「年金」が31.3%、「特にない」が22.9%、「住まい」が20.8%となっている
- その他の必要な情報としては「自分の病気に関する情報」があげられていた

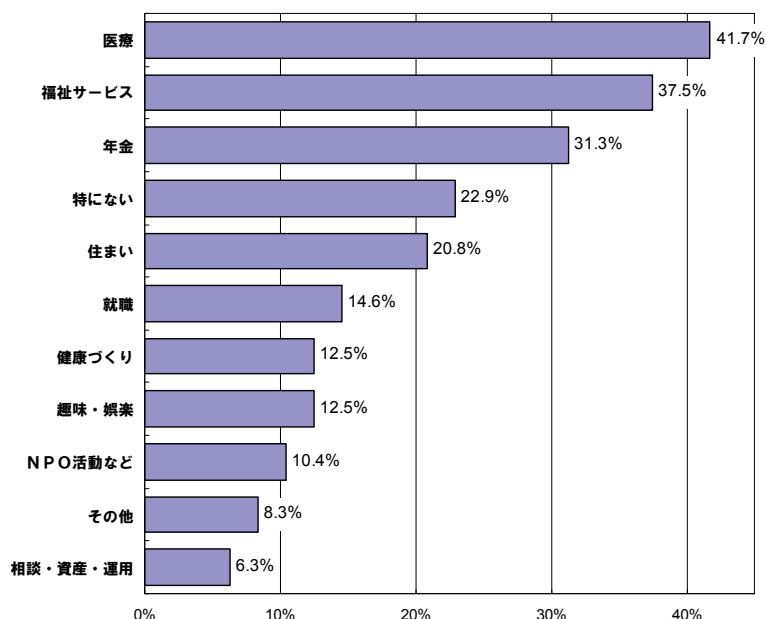


図3-9 必要な情報について

表3-9 必要な情報について

福祉サービス	医療	年金	住まい	就職	NPO活動など	健康づくり	趣味・娯楽	相談・資産・運用	特にない	その他	回答者数
18	20	15	10	7	5	6	6	3	11	4	48
37.5%	41.7%	31.3%	20.8%	14.6%	10.4%	12.5%	12.5%	6.3%	22.9%	8.3%	-

注：上段は人数、下段は割合

○ 具体的に知りたい内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

○ 国際生活機能分類（ICF）（1. 心身機能、2. 身体構造、3. 活動、4. 参加、5. 環境因子、6. その他）に基づき分類している。

【15件（環境因子 9件、その他 6件）】

5. 環境因子 9件

- ・ ガイドヘルパー、ホームヘルパーのサービスはどのようにして来ていただけるのか教えてください
- ・ 私達の住んでいる地域の、例えば家の中の（フローリング）とか、その他は色々なところのサービスを教えてください（サービスの種類）
- ・ 治療中であるが、視力が少しでも戻る治療が今後できるのかどうか、どのような治療方法があるのか知りたい
- ・ 目の治療に関する情報を知りたい
- ・ 他の病院ではどのような治療が行われているのか
- ・ 都営住宅に入ることができるかどうか

- ・ 障害基礎年金と老齢基礎年金の合算が可能か？
- ・ 緊急時におけるパソコンサポートや家電製品の取扱サポートのサービスの連絡先、自己負担等の情報を知りたい
- ・ 福祉サービスがどのようなサービスがあるかわからない

6. その他 6件

- ・ NPO 活動について情報がわからない
- ・ 精神的負担の軽減
- ・ 医薬品機構の年金の安定、いつ下げられるかわからないので不安で仕方がない
- ・ 視覚障害者向けのあらゆること
- ・ スティーブンジョンソン症候群について
- ・ NPO 活動の内容を知りたい

【注】国際生活機能分類（ICF）に基づき分類したものを【男女別・年代別の具体的に知りたいないようについて】まとめた資料・・・・・・・・・・・・参考7

Ⅲ 健康状態報告書（D票(調査研究事業用診断書)）の まとめについて

健康状態報告書（D票）のまとめについて

1. スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）

この度の第3回目の調査により、スティーブンス・ジョンソン症候群の健康状態を長期にわたって明らかにすることができた。第1回目、第2回目の調査でも報告したように、引き続き重度の視機能障害によって日常生活に大きな影響を受けていることがわかる。視機能障害は光覚マイナス（失明状態）から0.05程度に分布しており、急激な低下はないものの改善もみられていない。一部の患者では手術による視機能の向上を考えているものもあるが実際に手術に至っていないケースが多い。健康状態の大きな問題が視覚障害にあることを考えると、このような重篤な眼表面疾患の治療法の開発が必要と思われる。

また多くの患者が痛みを訴えており、同じ失明状態であっても現在日本の失明率の第1位から第5位までを占める緑内障、糖尿病性網膜症、網膜色素変性症、加齢黄斑変性、高度近視による網脈絡膜萎縮等とはかなり健康状態が異なることがわかる。これら5大疾患では失明していても痛みは伴わず、外見上の問題もないことが多い。これらに比較してスティーブンス・ジョンソン症候群では、痛みや眼瞼の異常、角膜への血管進入などがあり、視覚障害ばかりでなく、痛みや不快感、美容上の問題なども含めた総合的なケアが必要である。

継続的な健康状態を調査することにより、スティーブンス・ジョンソン症候群患者の健康状態がより明確に把握できつつあると思われる。

2. ライ症候群

昨年度に引き続き、寝たきりで全介助を必要とする状態にある患者の傷害実態が具体的に記載されている。呼吸管理、栄養管理に多くの医療資源が割かれ、家族への負担も大きいことが推察される。いずれも、生命予後に直結する重大な問題であり、発症以前には正常な日常生活を送られていた方が、予測不能であったとは言えこのような重篤な後遺障害に苦しんでおられることは誠に遺憾である。日常動作における介助のみならず、見守り、不穏状態などに対する対応など、ご家族の負担も大きい。救済制度の果たす役割の大きさが実感された。介護者の高齢化、患者本人の加齢に伴い、支援策も変化していくことが予想されるため、調査を継続する必要があると考える。

3. QOLの改善のための医学的な所見について（診断書より）

(1) スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）

- ・失明状態であるため現状以上の向上は望めない。
- ・培養上皮移植等の治療によりQOL改善の可能性はあるが、確実とは言えない。
- ・視力不良の為、日常生活は極めて不自由な状態が続いている。白杖の使用を要す。手術療法の可能性も考えられるが、予後は必ずしも良好ではない。
- ・睫毛除去、角膜保護。
- ・左眼移植角膜上に結膜上皮が血管とともに高度に進入しており、視力低下が著しい。睫毛内反があるため、角膜上に点状上皮欠損が発生しやすいため、毎週睫毛抜去をすることで、上皮欠損を最小限に抑えることができる。
- ・角膜保護のためにコンタクトレンズ処方と人工涙液の点眼が必要である。
- ・視力低下が進行すれば手術を考慮する現状です。
- ・両眼共に視力回復の見込みはない。睫毛乱生、眼表面乾燥に対し、処置や点眼、加療をすることで、少しでも疼痛および異物感は軽減できると考えられる。
- ・現在、睫毛乱生のため睫毛抜去をしている。また、瞼球癒着、角膜乾燥を少しでも防ぐためにコンタクトレンズを装用してもらっている。眼瞼下垂があるが、過去に1度手術をしている。また、あまり下垂を治すと結角膜の乾燥が進行することが危惧される。QOLをあげるための医学的処置はほとんど全部しているように思われる。人工角膜の安全性が証明されれば、残る方法として人工角膜移植が考えられる。
- ・マイボーム線治療、痛みに対する医療用コンタクトレンズの装用。
- ・将来的には培養上皮移植術などの治療で視力改善が得られる可能性が残されている。
- ・睫毛乱生の処置、眼表面炎症の沈静化。
- ・現段階での視力の改善は難しいと考えられる。
- ・両の閉瞼不全のため角膜混濁が悪化した。数ヶ月以内に眼瞼手術を行う予定である。
- ・医学的に行えることは特になし。介護ヘルパー派遣など行政的なサービスが望ましい。
- ・角膜移植（角膜幹細胞移植、羊膜移植、上皮移植等）で改善の可能性はある。

(2) ライ症候群

- ・ 体重コントロール（ダイエット）。
- ・ 四肢拘縮進行予防目的のリハビリ。
- ・ 奇声に対する気分安定剤及びオムツ交換のタイミングを合わせる協力をする。

IV む す び

むすび

本報告書は、平成 17 年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者の QOL の向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、平成 19 事業年度に引き続き、平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの 1 年間に健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等を調査集計したものです。

日常生活の具体的な工夫事例等については、国際生活機能分類に基づいたライフサイクル（生活環境）ごとにとりまとめています。

本報告書からは、健康被害を受けられた調査研究対象者の方々の日常生活の様々な工夫事例の実態が明らかになってきています。

今後もさらに、実態を把握するために、現在の調査項目については、平成 21 事業年度も継続して調査を実施することとしています。

その後の調査については、調査項目を見直した上実施することとしています。

なお、国際生活機能分類に基づいた分類作業にあたっては、林 茂史氏（日本社会事業大学大学院）のご協力を得ましたことに感謝申し上げます。

V 參考資料

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要
男女別・年代別の「④日常生活における工夫について」(日常生活の場面ごとの工夫事例)

場所	カテゴリ	分類	内容	性別	年代	ICF コード
屋内	物の置き位置	環境因子	靴を区別しやすいように、目立つものを中に 入れておく	女	60代	e115
			自分の持ち物には輪ゴム等で印をつける	男	80歳以上	e1150
			リモコンにオレンジ色のシールを貼るなど、わ かりにくいものにシールを貼る	男	60代	e1150
			食事など器と中身がわかりやすいように色を 変える	男	60代	e1150
			食器の色を識別しやすい色に変える	男	20代	e1150
			日常使用するものは必ず同じ場所におく	女	50代	e1150
			家庭内のものは少なくして広く歩けるように する	女	50代	e1150
			電子レンジに点字シールを貼り、1人で使用 できるようにする	男	50代	e1150
			尖ったものに黄色のマーキングをする	女	60代	e1150
			自分の手で物の区別がつくように、輪ゴムを したりする	女	70代	e1150
			介護者が健康被害者が使用するものを安易 に移動したり触れないようにし、常に日常生 活に必要なものの置き場所を変えないように する	男	40代	e1150
			家の中にある物の位置を変えない。	男	60代	e1151
			ベッドやテーブルの上から、物が落ちないよ うに箱をテープで止めたり、S字フックに吊る す	男	30代	e1151
			人にたのまなくても、物を自分でとりやすいよ うに置き場所などを変える	男	10代	e1551
			物の場所を移動させない	女	20代	e1551
			物の置き場所を変えない	女	50代	e1552
			食器など棚に整理して設置	女	50代	e1552
			書類などは、クリップの付け方を変えて、つけ 方により区別している	男	70代	e1150
	食事	環境因子	消化の良い献立にする	女	30代	e1100
			食道が炎症を起して狭くなっているため「刻 み食」の状態にしている	男	50代	e1100
			食器等は色物を利用する	男	80歳以上	e1150
			陶器の入れ物を落として足の指を骨折したた め、食器類を軽いプラスチックにだんだん変 えている	女	50代	e1150
			食器の一部を食べやすい形のものに変える	女	30代	e1150
			黒いまな板で調理をする(白っぽい大根を切 るとき)	女	60代	e1150
			食べ物が器と同色だときれいに食べきれてな いので、なるべくコントラストのはっきりとする 食器の色にする	男	10代	e1150
			黒いまな板を買い食材を見やすくする	男	40代	e1151
			ガスコンロは危険なので、電気コンロにかえ る	女	70代	e1551
			情報	環境因子	電話やエアコンを音声機能のものに変える	男
	拡大器を購入する	男			50代	e1151
	手元にはいつも直ぐ利用できるよう、ルーペ を置いている	男			50代	e1151

屋内	情報	環境因子	印刷物を読んでもらった時、必要なものについては点字表示のラベルを付けておく	男	30代	e1151		
			黒い文字盤の時計を使う	男	40代	e1151		
			パソコンを活用して情報を得る	男	50代	e1250		
			伝言を録音する	男	50代	e1250		
			ラジオから情報を得、楽しみと教養に役立っている	女	70代	e1250		
			家の中では、各所に拡大読書器、拡大ルーペを置いてあり、すぐに使えるようにしてある	男	40代	e1251		
			音声変換付きのパソコンの活用	女	60代	e1251		
			ライトや拡大鏡などを利用する	女	50代	e1251		
			電車の時刻をパソコンで検索する	男	50代	e1251		
			パソコンの音声環境を新しくする	男	40代	e1251		
			部屋にパソコンなども置き、使いたいときすぐにできるようにする	男	10代	e1551		
			健康管理	活動	寝たきりのため、こまめに拭くなど常に清潔さは保つようになっている	女	30代	d510
	濡れたガーゼを目にテープで貼り付けて生活する	女			30代	d5702		
	家の中でできるだけ掃除等をして体を動かすようになっている	男			50代			
	環境因子	夜寝る時に、メパチクリアという医療用(眼科)シールを目に貼るによりドライアイを軽減させる		女	30代	e1101		
		入院時に、ベッド上で洗面ができるようにあらかじめペットボトルに水を汲んでおく		女	30代	e115		
		寒い時は目が乾燥するため、エアコンをなるべく使用せず、コタツを使用する		女	70代	e1150		
		少し汚れた紙オムツを古い歯ブラシで石鹸をつけて水洗いし、それを乾かして再利用する。お尻を洗う時、フンの上に敷き並べると、水分をよく吸ってくれて、他をぬらすことが少なくなる		女	30代	e1150		
		たえず加湿器をつけ、めがねにはモイスターエイドを取り付け乾燥を防ぐ		女	50代	e1151		
		電気治療器を購入して家の中で治療をする		男	70代	e1151		
		風邪予防のため空気清浄、加湿をする		男	10代	e1151		
		室内を常に加湿し、昼間でも十分に睡眠を取る		女	30代	e1151		
		自分で測れるよう音の出るヘルスマーターや体温計を使用する		男	40代	e1151		
		目が乾燥し見えにくいので、ぬれたタオルをかけて置く		女	70代	e1158		
		居住環境		環境因子	コタツ布団で引っかかることがあるため、コタツをとりテーブルとして使用	女	70代	e1150
					家をバリアフリーに新築	男	20代	e1550
					家を新しくし、ガスからオール電化に切り替える	女	30代	e1551
					オール電化にする	女	60代	e1551
	家の中の段差のところはつまずくため、マット他を敷き、段差をなくす		女		70代	e1551		
段差等の危険な所は大きな目印をつける	男		80歳以上		e1552			
段差があるところに塗料で目印をつける	女		40代		e1552			
階段の一番上に目印をつけてわかるようにする	女		40代		e1552			

屋内	居住環境	環境因子	家の中ではカーペットをしいたりして、段差を減らすようにしており、段差のあるところには色違いのマットを敷いている	女	50代	e1552
			ベッドにしている	女	70代	e1552
			部屋の中をできるだけ明るくする	男	60代	e2400
			子供がいるため足元に物を置かないよう常に片付けに気を配っている	男	30代	
	移動	環境因子	明るい色(白っぽい)のスリッパを履く	女	60代	e1150
	その他	活動	身が不自由なので音楽や落語等を聴いて楽しむようにしている	男	50代	
			ATMカードの袋を小さくして(5mm)取り出しやすく工夫する	女	60代	e115
		環境因子	洋服や下着等の裏表に目印をつける	男	80歳以上	e1150
			洗濯物の仕分けを本人とわかるように糸で点字風に表す	女	50代	e1150
			SM字書類に、シールに点字をメモして貼り付ける	男	50代	e1250
ストレスをためないよう家族との会話、新聞の閲覧、相談を行う等気をつけている			男	60代	e2400	
屋外	健康管理	活動	運動不足なので、散歩に出るようにしている	男	60代	d450
			日差しの強い日、場所、時間を避ける	男	30代	
	環境因子	遮光サングラスを利用	男	30代	e1151	
		帽子を深くかぶり紫外線を予防	女	60代		
	移動	環境因子	夜は外出しない。昼でも暗がりには避けるようにする	女	60代	e115
			常に外出時には杖代わりに洋傘を持つ	男	80歳以上	e1150
			白線に沿って歩行	女	60代	
			カカトの低い靴を履く	女	60代	
その他	物の置き位置	環境因子	手回り品は識別し易いような色、形体を考慮して選んでいる	男	50代	e1150
	情報	環境因子	携帯でインターネットができるよう手続きした	男	10代	e1250
	健康管理	環境因子	サングラスのまわりに、光よけをつけてもらう	女	70代	e1150
			OPE後、目がまぶしいので、サングラスだけではなく、常に帽子をかぶるようにしている	女	70代	e1150
			肺が苦しいため車椅子を購入	女	10代	e1151
			散歩中の埃よけ、又室内でのペットの毛が眼に入らないよう、枠のある眼鏡を使用している	男	50代	e1151
	移動	活動	文章等の受け渡しは内容を口頭で良く確認して受ける	男	80歳以上	d160
			規則正しい生活を行い行動範囲を工夫する	女	50代	d570
		環境因子	動作をゆっくり行うようにする	男	80歳以上	e1150
			座位保持椅子に車輪をつけて小さいときは押していけることができたが、現在大きくなり、逆にその車輪の高さが持ち上げるときにきついため、車輪を外して高さを低くしている	男	10歳未満	e1201
			階段は手すりをもつ	女	60代	
	その他	環境因子	身の回りの物に鈴など付けて落ちたりした場合のことを考え、錫の大きさを変え、音で判断できるようにしている	男	10代	e1150
盲導犬の貸与			女	60代	e1251	

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑥福祉サービスについて」(A:意見 B:要望 C:その他)

区分	内 容	性別	年代	備考
A	何か、法制とかサービス内容が、何年もたない間にころころと変わっていくので、ついていくのが大変である	男	10歳未満	
A	今は何もお世話になっていないが、今後のことを思うと何らかの形でかかわって頂いて、本人のことを知ってもらい、いざという時に、すんなりと手続きができるようにしておいた方がいいように思っている。でも、その程度のサービスがあるのかわからないので、何をどうしていいかわからない	男	10代	
A	別に必要を感じない(どのようなサービスが自分に適しているかわからないので)	男	20代	
A	郵便物で重要なものが点字で書いていないことがあり、そのままになっている時がある。	女	20代	
A	どのようなサービスがあるかは自分で調べなくてはならず、福祉サービスをできるだけ利用しないようにしていると感じられる	男	30代	
A	両親と同居しているため必要としない	女	30代	
A	これまでに利用したことがないのでよくわからない	女	30代	
A	出かける時に家族では手が足りないので、ガイドヘルパーさんがいてくれると助かります。田舎で車社会のため不便です	男	30代	
A	家族が助けてくれている為利用していない	女	40代	
A	どのような福祉サービスがあるのかわからない	男	40代	
A	何をしたいのか分からない	女	50代	
A	今のところは家族で充分手が回っているため、特にありません	男	50代	
A	日常生活用具(福祉器具)の購入で福祉サービスがありますが、「拡大器」を購入し、次に「文書読み上げ装置」の購入をと考えていましたが、一点しか対象にならないので、断念しました。説明には記入してなかったので残念です	男	50代	
A	現在のところ満足しています	女	50代	
A	現在は介護者(夫)がいるため不自由を感じない	女	60代	
A	サービスを受けたいけど、費用がかかるし、信用できない	女	60代	
A	ガイドヘルパーさんの人手不足、又は高齢化になってきています。若い人達の将来が明るく、安心して働くことができるように、長く続くように確保してあげなくては、利用者は気をつかうことも出てくる。ご一考ください	男	70代	
A	視力障害者は一人で外出出来ない。どうしてもヘルパーさんの世話になるのですが、ガソリン値上げ諸々、便乗値上げが響き、外出しにくくなりました。遠慮がちになってしまいます	男	70代	
A	福祉サービスを受けるようになったら、利用したいと思ってます	男	70代	
A	どんな福祉サービスがあるかわかりません	男	70代	
A	まだまだ書面によるお知らせが多く不便。また3月～4月になると、更新の時期のため、手続きが大変	女	70代	
A	福祉サービスを受けるための書類が多すぎる。ほとんど見えないため、対処するのが大変	女	70代	
A	書類多い、見えないためそれがストレスになる	女	70代	
A	老人ホームに早く入所したい	女	70代	

A	生活援助の時間が足りない。外出する時、ヘルパーさんの車が使えない(すべてタクシーを使わなければならない)	女	70代	
B	あまり情報が得られないので、そういう情報を家庭にもすぐに得られるように、学校や通所など通じて教えて欲しい	男	10歳未満	
B	せめて役所からの郵便物は点字で知らせて欲しい。大事な書類を見落とすことが多い	女	20代	
B	点字ブロック、音声信号機をもっと増やして欲しい、また点字ブロックの上を自転車などでふさがなくて欲しい	女	20代	
B	入所施設にと考えても、あまりにも重度のため自宅近くにはなく、遠い所のみ。近くにあればと本当に願います。	女	20代	
B	医療行為が必要であるため、ヘルパーとか他の人にたのめず大変。医療行為の必要な人の介護をいつでもたのめると本当に助かります。	女	20代	
B	介助者が急病な時に病院の送迎と付き添いに代わりに付き添って連れて行ってくれるサービスがあれば、本当に助かります。病院まで車で1時間かかります。	女	20代	
B	少なくとも自分がかかわっている制度やサービスについての書類は、自分で読みたい。自治体等から届く活字の書類を視覚障害者でも自力で読める仕組みが普及定着することを強く希望する	女	30代	
B	日常生活の突発事項にも柔軟・臨機応変に対応できる福祉サービスを強く望む	女	30代	
B	公共交通機関と同等程度の負担で利用できる車輛の普及	女	30代	
B	障害者の所得の底上げが実感できないままの福祉サービス利用料負担について再考して欲しい(健康被害者が障害者である場合)	女	30代	
B	通院介助。移動支援等のガイドヘルプサービス提供事業所の増加・充実	女	30代	
B	発信された1つの情報を心身の状態に合わせた形式に切り替えて入手できるようにして欲しい(活字情報を音声で受け取る、音声情報を活字で受け取る等)	女	30代	
B	福祉と医療の連携を進めて欲しい	女	30代	
B	見かけではわかりづらい障害を持つ人が周りに伝えられるものがあるとよい	男	30代	
B	ガイドヘルパー利用料の引き下げ	男	30代	
B	ガイドヘルパーを充実させてほしい	男	30代	
B	メディカルユース(治療用)コンタクトレンズの保険適用を強く望みます	女	30代	
B	保護用のコンタクトレンズを保険適応又は行政の障害者のための補助具に指定して欲しい	女	30代	
B	社会参加のために音声パソコンを使用しているが、トラブル発生時に修理・修正が一人でできないので、視覚障害用パソコン機器の知識のあるスタッフの育成をして、訪問サポートを公的な機関でして、費用の補助もしてほしい	男	30代	
B	掃除一般を受けたい	男	40代	
B	スーパーで字が見えにくいので、宅配で簡単に物が買えたらいいと思います	女	50代	
B	すべての信号に音をつけてほしい	女	50代	
B	介護タクシーについて知りたい	女	50代	
B	視覚障害者が運動できる場所が欲しい	女	50代	
B	4週に一度、目の保護用ソフトコンタクトを装着し、新しく交換していますが高額であり、保険もききません。医療用として保険の適用を受けられたらと思っています	男	50代	
B	もう少し、視覚障害があっても受け入れてくれるサークル等があると良いと思います	女	50代	
B	ヘルパーの利用を考えています。食事作りが大変なもので、介助して欲しい	女	50代	

B	ガイドヘルパーの自己負担(一割)をなくしてほしい	男	50代	
B	居住区の緊急介護制度によるガイドヘルパー制度が大変役立っている。福祉サービスの簡素化、削減が計画されているが、存続を期待したい。	女	60代	
B	特に危険を感じることは、歩道での自転車通行が視力障害者にとって大きな不安となっていること！ 自転車専用路etc、真剣に検討して欲しいものです	女	60代	
B	ケアマネージャーを活用したい	男	60代	
B	デイサービスを受けたいのですが、適当な施設が見つかりません。社協からのケアマネージャーの来家を希望したい	女	70代	
B	なるべく引きこもることのないよう外の空気に触れるよう努力したいけれど、月使う時間をもっと増やして欲しい。市によって差がありますが、居住市は減らそう減らそうと進めています	男	70代	
B	ガイドヘルパーさんの数が少ない、もっと増えて活用できる時間を増やして欲しい。要介護から要支援になり、等級も厳しくなり、体は悪くなっていく状態なのに逆方向の等級になり困っている	男	70代	
B	通院に際し、ヘルパーさんの付き添い時間が短いため、自分でタクシーを手配して出かけることがあるが、物に引っかかりつまずいたりして危ない。ヘルパーの付き添い時間を長くして頂きたい	女	70代	
B	介護タクシーをもっと使いやすくして欲しい。眼を保護するソフトコンタクトレンズについて補助して欲しい	女	70代	
C	短期入所の場所は、情報として得るべきである	男	10歳未満	
C	なにかにつけてサポートしていくことが大事だし、本人が生きていく上で、絶対必要だと思います。介護者のストレス又はサポートする時間、介護者自身の生活が大変になっていると思います。これからのことを考えると、出口の見えないトンネルみたいでどうしたらいいんだろうと思うときがあります。	男	10代	
C	お世話になっても、遠慮したり、我慢したりしながらだとかわいそうに思い、できるだけ家で自由にさせてやりたいと思っています。しかし、もし私が病気になった時などのことを考えると、かえって不安にもなります	男	10代	
C	治療中のため、施設等の福祉サービスを受ける心構えがまだできていない状態です	男	20代	
C	精神・神経、視力障害がひどく歩くこともできず、食事も一人でできません。介護を私と主人で一生懸命しておりますが、私たちも高齢ですの疲れの反動で息苦しくなり、寝込んでしまう状況の毎日です	女	40代	
C	施設を離れて社会復帰を目指します。公的な援助や地域に受け入れられるかなど不安でいっぱいです	女	40代	
C	冬になり、家族が買ってきてくれた灯油が買いに行けなくて困っている(同居する家族が減ったため)。区役所に相談したが、家事援助で重いものは難しいといわれ困っている	女	50代	

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「困ったことについて」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	ICF コード
1	夜体調が悪く中々眠らず、結局抱いて一夜を過ごすことがあります。たまになら良いのですが、3日も続くと具合が悪くなります	女	20代	b134
1	障害の中で視力障害が一番肉体的・精神的にきついと思う。日常生活で困ることばかりだと思ふ	女	20代	b2100
1	車椅子で外出の際お尻が椅子の外に出て、本人が不安のためか、痙攣のようにひきつり、1時間ほど往生した	女	30代	b152
1	視力低下のため外出時、ときに危険を感じる	男	30代	b2100
1	買物の時の商品の価格や時刻表が見にくい	男	30代	b2100
1	なみだが出ないためゴーグル等をかけないといけない(保湿のため)	男	40代	b210
1	目の病気になりやすい	男	40代	b210
1	夜道で人や物にぶつかってケガをした	男	40代	b2100
1	お金や物を落とした時見つけられない	男	40代	b2100
1	印刷物を自分では読めません	男	50代	b2100
1	食事をする時、何がどこにあるか、何を食べているかわからない	男	50代	b2100
1	どんな洋服を着ているのか等、着替えをする時困る	男	50代	b2100
1	買物のとき、料金が見えなかったり、どこに何があるかわからない	女	50代	b2100
1	人ごみを歩く時、視野が限られているので、人とぶつかってしまう	女	50代	b2101
1	目の不快感は当然のことながら、治療のために大量使用したステロイド剤の投与で、腎臓機能の低下が進行しており、将来が不安になる	男	50代	b610
1	見えないということが全てにおいて困っています	女	50代	d2100
1	外出先の段差がほとんどわからず、ころんだり、つまずいたりする	男	60代	b2100
1	買物の値段が見えない	女	60代	b2100
1	全く視力がないのであらゆる場面で困る	女	60代	b2100
1	視力障害1級なので、外出しても景観、物体すべてが暗の中 です。家事の手助けもできないので、情けない限りです	女	70代	b2100
1	病院の窓口等で書類のやりとりや、物を落とした時に探すのが困難	男	80歳以上	b2100
3	電車のホームが直前になって変更になった	男	10代	d240
3	歩道が狭く、電柱や車、自転車で途中通れなくなってしまったこと	男	10代	d240
3	歩道が片側へ傾いて車椅子で通るのが大変だった	男	10代	d240
3	急用時に外出ができなかった(一人で居る時)	男	20代	d460
3	入院中に他の病院の受診日に行くことができなかった	女	30代	d210
3	風呂に入れるとき母の手がかたく動かなくなり、急遽、手伝いの人に代わってもらった	女	30代	d510
3	買物	男	30代	d6200

3	体調が安定せず、約束等を守れない(予定をたてられない)	男	40代	d210
3	文字の読み書きができないことで新しい本が読めない	男	50代	d166
3	小さな段差や床にタイル等がしいてあると、どこが境かわからず、非常に歩きづらい	女	50代	d450
3	自転車が歩道に止まっていたり、スピードで横を通るとき危ない	女	50代	d450
3	持ち物(眼鏡など)の外出先での紛失	女	60代	d240
3	外出したいと思う時に自由に出られない	男	70代	d460
5	本人がだんだん大きくなって体重も増えてきたが、全介助の上に、家が階段しかない団地であること(3F)	男	10歳未満	e1550
5	外出に介助者が必要なこと	女	10代	e340
5	買物に行った時は介助者が必要	女	30代	e340
5	初めての通院や買物で外出する際に介助者が必要なこと	男	30代	e340
5	目を保護するために使用しているソフトコンタクトレンズ費用が高くて払えない	女	30代	e580
5	外出する時介助者が必要なこと	男	40代	e340
5	病名がSJSであると答えると、やはり薬などを出すのを困った顔をする。医者の中には薬を出してくれないことがある	男	40代	e450
5	バスが行先を言い終わらないうちに発車してしまうので、希望のバスに中々乗れない	男	40代	e540
5	金融機関などで代筆を断られたこと	女	40代	e565
5	外出時に目印が変わり道に迷ったとき	女	50代	e1502
5	買物や散歩等で外出する際に介助者が必要なこと	女	50代	e340
5	介助者が必要な時に誰もいないとき一番困る	男	70代	e340
5	急に病院へ行きたい時、介護者がいない時	女	70代	e340

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「解決策について」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	ICF コード
3	障害の中で視力障害が一番肉体的・精神的にきついと思う。日常生活で困ることばかりだと思う→工夫して自分でできる限りは行っていた	女	20代	d599
5	外出に介助者が必要なこと→私だけでは大変なので子供や夫に協力(子供や夫が休みのときだけ)	女	10代	e310
5	電車のホームが直前になって変更になった→駅員さんなどに手伝ってもらい歩道橋を使い向かい側へ渡った	男	10代	e5400
5	入院中に他の病院の受診日に行くことができなかった→家族が代わりにいって病状を説明した	女	30代	e310
5	買物に行った時は介助者が必要→友達にガイドヘルパーとして同伴してもらった	女	30代	e320
5	買物の時の商品の価格や時刻表が見にくい→人に聴いてみた	男	30代	e325
5	車椅子で外出の際お尻が椅子の外に出て、本人が不安のためか痙攣のようにひきつり、1時間ほど往生した→周囲の人がみな寄って助けてくれた	女	30代	e325
5	外出する時介助者が必要なこと→身内の人と外出することで外出ができる	男	40代	e310
5	なみだが出ないためゴーグル等をかけないといけない(保湿のため)→ゴーグルを常にかけることとする	男	40代	
5	買物や散歩等で外出する際に介助者が必要なこと→身内の者や友人に同伴してもらうことで解決できた	女	50代	e310
5	外出時に目印が変わり道に迷ったとき→人に尋ねる	女	50代	e325
5	買物のとき、料金が見えなかったり、どこに何があるかわからない→店の人に介助を頼む、ルーペ等を使う	女	50代	e325
5	文字の読み書きができないことで新しい本が読めない→地域のボランティアグループに代読を依頼した	男	50代	e325
5	買物の値段が見えない→10倍ルーペの活用、そばの人に聞く	女	60代	e1151
5	外出先の段差がほとんどわからず、ころんだり、つまずいたりする→介護者の手がはなせない	男	60代	e340
5	急に病院へ行きたい時、介護者がいない時→その時はどうしようもないので、介護者がいるときまで我慢し、病院にいった	女	70代	e340

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「解決方法について」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	ICF コード
1	障害の中で視力障害が一番肉体的・精神的にきつと思う。日常生活で困ることばかりだと思う→ できないところは他の人をお願いするしかないかな？	女	20代	b2100
1	人ごみを歩く時、視野が限られているので、人とぶつかってしまう→ 解決できないと思う(一人で行動するとき)	女	50代	b2101
1	目の不快感は当然のことながら、治療のために大量使用したステロイド剤の投与で、腎臓機能の低下が進行しており、将来が不安になる→ 少しでも進行を遅らせるため、食事に気をつけることしかないと思います	男	50代	b610
1	全く視力がないのであらゆる場面で困る→ 家族、区の福祉サービス、パソコンの利用、盲導犬etcで、いくつかの点は解決し、次善の生活をするようにしている	女	60代	b2100
1	視力障害1級なので、外出しても景観、物体すべてが暗い中です。家事の手助けもできないので、情けない限りです→ 角膜移植手術でわずかの望みはありますが、今は体調が万全ではないので望み薄です	女	70代	b2100
1	病院の窓口等で書類のやりとりや、物を落とした時に探すのが困難→ 人が来るのを待つて解決する	男	80歳以上	b2100
3	歩道が狭く、電柱や車、自転車途中で通れなくなってしまったこと→ 道路の整備をして欲しい。京都は昔からのところが多く、観光地であっても車椅子の人にとって大変な所が多い	男	10代	d240
3	急用時に外出ができなかった(一人で居る時)→ 治療により視力が戻ること	男	20代	d460
3	買物→ ヘルパーの増員	男	30代	d6200
3	持ち物(眼鏡など)の外出先での紛失→ 通院のたびに持参する持ち物(点眼、治療用眼鏡)が多すぎるため、本人の自覚を持つとともに、バッグ等の収納方法について工夫が必要と思う	女	60代	d240
5	本人がだんだん大きくなって体重も増えてきたが、全介助の上に、家が階段しかない団地であること(3F)→ 引越すしかないのだが、仕事の都合上、なかなか引越すできない	男	10歳未満	e1550
5	目を保護するために使用しているソフトコンタクトレンズ費用が高くて払えない→ コンタクトレンズを治療として使用する場合、保険などで助成してほしい。	女	30代	e580
5	バスが行先を言い終わらないうちに発車してしまうので、希望のバスに中々乗れない→ バスの行先案内のアナウンスを経由地と目的地のみにしてもらう	男	40代	e540

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「日常生活を満足するために一番やりたいことについて」
(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	ICF コード
3	バイト	男	10代	d845
3	旅行に行っているところを見たり、おいしいものを食べたりしたい	男	10代	d920
3	友達と遊びたい	女	10代	d920
3	映画やテレビや本を読みたい	男	20代	d166
3	外出を一人でしたい	男	20代	d920
3	読書を容易にできるようにしたい	男	30代	d116
3	寝たきりのため、できるだけ体を清潔にしてやること	女	30代	d570
3	何らかの形での就業	男	30代	d845
3	仕事	男	30代	d845
3	治療院開業	女	30代	d8500
3	旅行、買い物	女	30代	d920
3	経済的自立をした上で趣味の音楽や旅行をしたい	男	30代	d920
3	リラックスできる時間をつくりたい	男	40代	d599
3	じっくり自分で選んで買物がしたい	女	40代	d620
3	気軽に外出できるようになりたい	男	40代	d920
3	少し前までは何とかパソコン画面が見えていたので小説を書いていたが、最近は全く見えていないため、見えるようになって続きを書いて、1冊の本に完成させたいと思います	男	50代	d170
3	物が見つけにくいので整理整頓	女	50代	d6402
3	普通の生活	女	50代	d699
3	気軽に旅行をしたい	男	50代	d920
3	趣味のブライダルダンスで優勝すること	女	50代	d920
3	映画やテレビを見たい(音声解説付)	男	50代	d920
3	気軽に旅行したり散歩がしたい	女	50代	d920
3	趣味、パソコンなどのスキルをupしたい	女	60代	d155
3	旅行に行きたい	男	60代	d920
3	旅行や趣味の充実	女	60代	d920
3	花大好き、園芸	女	60代	d920
3	本や新聞を読むこと	女	70代	d166
3	裁縫をすること	女	70代	d920
3	庭木の手入れをすること	女	70代	d920

3	気軽に外出したい	男	70代	d920
3	一人で外出したい	女	70代	d920
3	新聞と読書すること	男	80歳以上	d166
3	自由に外出すること	男	80歳以上	d920
5	公共交通機関をもっと利用しやすくして欲しい	男	40代	e540
5	目の痛みが取れる治療法と視力の回復	女	50代	d580
5	目が見えるようになるための手術	男	50代	e580
6	生活の安定とリハビリの必要性	男	10歳未満	
6	介護者自身の生活も大切にすること	女	20代	
6	元の身体に戻りたいです	男	40代	
6	普通のことができるようになりたい	男	60代	
6	人の迷惑にならない生活がしたい	女	70代	
6	一般の家庭生活	女	70代	

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

C票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「具体的に知りたい内容」

(1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他)

区分	内 容	性別	年代	ICF コード
5	治療中であるが、視力が少しでも戻る治療が今後できるのかどうか、どのような治療方法があるのか知りたい	男	20代	e580
5	緊急時におけるパソコンサポートや家電製品の取扱サポートのサービスの連絡先、自己負担等の情報を知りたい	男	30代	e510
5	都営住宅に入ることができるかどうか	女	30代	e525
5	他の病院ではどのような治療が行われているのか	男	30代	e580
5	私達の住んでいる地域の、例えば家の中の(フローリング)とか、その他は色々なところのサービスを教えてください (サービスの種類)	女	40代	e570
5	福祉サービスがどのようなサービスがあるかわからない	男	40代	e570
5	ガイドヘルパー、ホームヘルパーのサービスはどのようにして来ていただけるのか教えてください	女	40代	e575
5	障害基礎年金と老齢基礎年金の合算が可能か?	男	50代	e570
5	目の治療に関する情報を知りたい	男	50代	e580
6	NPO活動について情報がわからない	男	40代	
6	医薬品機構の年金の安定、いつ下げられるかわからないので不安で仕方がない	男	40代	
6	視覚障害者向けのあらゆること	女	40代	
6	精神的負担の軽減	女	50代	
6	ステイーブンジョンソン症候群について	男	70代	
6	NPO活動の内容を知りたい	女	70代	

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

B票(社会活動を中心とした調査)及びC票(過去1年間の日常生活状況調査)からみた生活状況の概要

日常生活の満足度と外出の頻度(第4・四半期)との関係 (人数)

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	まったく外出していない	合計
満足	1	0	0	1	0	2
やや満足	2	1	0	4	0	7
どちらともいえない	4	2	9	3	1	19
やや満足できなかった	0	2	2	1	0	5
満足できなかった	4	2	4	5	1	16
回答なし	1	0	1	4	0	6
合計	12	7	16	18	2	55

日常生活の満足度と現在行っている社会参加・社会活動等(第4・四半期)との関係 (人数)

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどへの参加	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会活動	特になし	その他	回答者数
満足	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
やや満足	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	—
どちらともいえない	5	1	1	6	5	6	0	5	0	2	—
やや満足できなかった	2	1	0	1	0	3	0	2	0	0	—
満足できなかった	3	1	3	0	1	2	1	1	0	0	—
回答なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合計	11	3	5	7	7	12	1	8	0	2	19

注:社会参加・社会活動等(第4・四半期)について複数回答した19人の日常生活の満足度である。

VI 用語の解説

【用語の解説】

1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

概要

医薬品医療機器総合機構は、平成13年に閣議決定された特殊法人等整理合理化計画を受けて、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センターと医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構および財団法人医療機器センターの一部の業務を統合し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき平成16年4月1日に設立された。

当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、医薬品や医療機器などの品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し（承認審査）、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としている。

名 称：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

設 立：平成16年4月1日

法人の種別：非公務員型独立行政法人

2 医薬品副作用被害救済制度

創設：昭和55年5月1日

医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とし、医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として設けられた。

救済給付に必要な費用は、医薬品の製造販売業者がその社会的責任に基づいて納付する拠出金が原資となっている。

3 保健福祉事業

保健福祉事業は、昭和54年10月に医薬品副作用被害救済基金（現医薬品医療機器総合機構）が設立される際、救済制度の目的が医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図ることにあり、この目的の達成には、健康被害者について救済給付の支給以外に保健福祉事業を行う必要のある場合が考えられることから法制化された。

当初、事業内容としては、医薬品の副作用による健康被害の治療研究等が考えられていた。

具体的には、救済給付を行った死亡、障害等重篤の事例等について、早期診断、治療等に関する研究を行うことにより、救済給付の受給者及び今後発生する健康被害者の治療に役立てること。

根拠 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成14年12月20日 法律第192号）
第三条 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「機構」という。）は、医薬品の副作用又は生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図り、並びに医薬品等の品質、有効性及び安全性の向上に資する審査等の業務を行い、もって国民保健の向上に資することを目的とする。

第四条～第十四条 略

第十五条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一 医薬品の副作用による健康被害の救済に関する次に掲げる業務

イ 医薬品の副作用による疾病、障害又は死亡につき、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料の給付（以下「副作用救済給付」という。）を行うこと。

ロ 次条第一項第一号及び第二号に掲げる給付の支給を受ける者並びに同項第三号に掲げる給付の支給を受ける者に養育される同号に規定する十八歳未満の者について保健福祉事業を行うこと。

ハ～ニ 略

二～五 略

2 略

4 ライ症候群【英字】（Reye's syndrome）

インフルエンザや水ぼうそうなどのウイルス性疾患にかかった小児に、アスピリンなどのサリチル酸系を投与すると、その後嘔吐、意識障害、けいれんなどの急性症状を起こす。予後は悪く死亡率は高い。

5 SJS（スティーブンス・ジョンソン症候群【英字】（Stevens-Johnson syndrome））

皮膚粘膜眼症候群。皮膚粘膜等に発生する高熱性、炎症性の疾患。全身倦怠、食欲不振につづき結膜炎、口内炎、外陰部の炎症を伴う。気管支炎をおこすこともある。原因は不明であるが薬物、ウイルス等が考えられる。

6 QOL（生活の質）【英字】（quality of life）

一般に生活を物質的や技術的で量的側面からではなく、内容としての質的側面から捉え、生活者自身の満足感、幸福感、安心感、安定感などの諸要因のことをいう。医療、福祉、政策、環境などの広い分野で使われ、ADL、IADL、労働問題、情報保障、自己選択、自己決定、自己実現、障害や差別の改善などがある。生活環境を整え、健康で文化的な生活の向上を目指していて、価値観も含む。

7 ADL【英字】（activities of daily living）

日常生活動作の事。人間が毎日の生活を送るための基本的動作の事。

8 IADL【英字】（instrumental activities of daily living）

手段的日常生活動作の事。ADLが食事、入浴、排泄等の日常的の基本動作であるのに対し、IADLは電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理の八項目で構成されておりADLで使用する動作を応用した動作が必要な活動を指す。

9 訪問介護

高齢者、障害者、難病患者等を対象に、家庭等にホームヘルパーを派遣し、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活等に関する相談、助言など日常生活上の世話を行うサービス。巡回型と滞在型がある。

10 訪問入浴介護

介護保険の給付対象となる居宅サービスの1つで、在宅の要介護者等の居宅を訪問して行われる入浴の介護のことを指す。

11 訪問看護

居宅で介護を受ける要介護者・要支援者に、看護師、准看護師、保健師、理学療法士、作業療法士などが訪問して、必要な診療の補助を行うことをいう。

12 訪問リハビリテーション

要介護者等の居宅において、心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法、その他必要なリハビリテーションをいう。

13 居宅療養管理指導

医師、歯科医師、薬剤師等が利用者宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う介護保険の居宅サービスのひとつ。

14 通所介護

在宅のお年寄り等に施設に通ってもらい、生活指導・機能訓練・食事・入浴・健康チェックなどのさまざまなサービスを日帰りで提供するサービス。

15 通所リハビリテーション

精神症状や問題行動が激しい痴呆性老人を対象とするデイ・ケアで、生活機能の回復への訓練や指導、家族に対する介護指導を行う。

16 短期入所

老人短期入所施設、特別養護老人ホームなどの福祉施設に短期間入所し、在宅の寝たきり老人を世話する介護者に代わって一時的に保護するサービス。

17 送迎サービス

交通機関の利用が難しい高齢者や障害者を対象に、運転・介助を行う送迎サービス。

18 ガイドヘルパー

身体障害者ホームヘルプサービス事業において、身体障害者などが外出する際、その付添いを専門的に行うホームヘルパー。

19 国際生活機能分類（ICF）

【英字】（International Classification of Functioning, Disability and Health）

人間の生活機能と障害の分類法として、2001年5月、世界保健機関（WHO）総会において採択され人間の生活機能と障害について「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3つの次元及び「環境因子」等の影響を及ぼす因子で構成されている分類である。

VII 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書
(生活状況調査票)

(ライ症候群記入用)

--

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書

第4・四半期分（平成 年 月～平成 年 月）

調査票記入者氏名		本人との関係	
----------	--	--------	--

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて月1日から 月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2

TEL 03-3506-9460

FAX 03-3506-9439

1. 健康被害者情報

(ふりがな)

氏 名 _____ 性別 男 女

大正
生年月日 昭和 年 月 日
平成

自 宅 住 所
(〒 _____)

[電話番号 (_____) _____]
[FAX番号 (_____) _____]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

平成 年 月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答えください。	年齢	主に介護をしている方に○を付けて ください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) <input checked="" type="checkbox"/> 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

_____ 級
_____ 級

④訪問リハビリ 月に 日	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
リハビリ内容	上記の理由
⑤居宅療養管理指導 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
リハビリ内容	上記の理由
⑥通所介護 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
介護内容	上記の理由
⑦通所リハビリ 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
リハビリ内容	上記の理由

次頁へ続く↓

⑧短期入所 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥
入所内容	上記の理由
⑨送迎サービス 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥
サービス内容	上記の理由
⑩ガイドヘルパー 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥
サービス内容	上記の理由
⑪上記以外の福祉サービス 月に 回 (サービス名)	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥
	上記の理由

生活状況調査票

B票

4半期毎記入

期	月～ 月分	平成 年 月末日現在
---	-------	------------

答えられる範囲でお答えください。

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けてください。)

- 1 まったく外出していない
- 2 ほぼ毎日
- 3 週に4から5回
- 4 週に2から3回
- 5 月に2回から3回

①-1 外出された方にお聞きします。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1 介助なし
- 2 配偶者
- 3 親
- 4 子供
- 5 その他の家族
- 6 親戚
- 7 ホーム(ガイド)ヘルパー
- 8 隣人・知人
- 9 雇人
- 10 ボランティア
- 11 その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

- 1 困ることや不満に思うことはない。
- 2 困ることや不満に思うことがある。

②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。

困ることや不満に思うことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1 介助者がいない
- 2 経費がかかる
- 3 人の目が気にかかる
- 4 人と話をすることが困難
- 5 外出に必要な情報が得られない
- 6 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
- 7 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
- 8 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
- 9 人の混雑や車に身の危険を感じる
- 10 駅などにおける人間関係のトラブル
- 11 その他 ()

次頁へ続く↓

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。

- 1 まったくしていない
- 2 参加(活動)した

③-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1 コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
- 2 スポーツ教室、大会などへの参加
- 3 旅行・キャンプ・釣りなどの活動
- 4 趣味の同好会活動
- 5 ボランティアなどの社会活動
- 6 障害者団体の活動
- 7 地域活動
- 8 パソコンを利用した社会参加
- 9 特にない
- 10 その他 ()

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

④ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。

次頁へ続く↓

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑥ 必要な福祉サービスなどについてのご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

生活状況調査票

C票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

<p>◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)</p> <p>1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答</p>	
① 過去に困ったことはありましたか。	1. はい 2. いいえ
①-1 はいと答えた方にお聞きします。それはどんなことですか。	
①-2 解決策はありましたか。	1. 解決した 2. していない
①-3 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。	
①-4 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。	
② 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれましたか。	1. あった 2. なかった
②-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどんなこと又は、どんなときですか。	
③ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。(最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	満足できなかった どちらとも言えない 満足 ①.....②.....③.....④.....⑤
③-1 その満足度の理由は何ですか。	

次頁へ続く↓

④ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。	
④-1 実現できそうですか。 (最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	出来ないと思う どちらとも 出来ると思う 言えない ①…………②…………③…………④…………⑤
④-2 その理由は何ですか。	
⑤ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)	
1 コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2 スポーツ教室、大会などへの参加 3 旅行・キャンプ・釣りなどの活動 4 趣味の同好会活動 5 ボランティアなどの社会活動 6 障害者団体の活動 7 地域活動 8 パソコンを利用した社会活動 9 特にならない 10 その他 ()	

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)	
1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
⑥ 福祉サービスを受けるために現在または将来主にどういう方と相談しますか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)	
1 親・祖父母 2 兄弟姉妹 3 配偶者 4 子供 5 友人・知人 6 会社の人・学校の先生 7 医師 8 看護師・保健師 9 公的機関の職員(身体障害者更正相談所、福祉事務所、市(区)役所など) 10 民生委員 11 身体障害者相談員 12 障害者の団体(親、家族の会を含みます) 13 特にならない 14 その他 ()	

次頁へ続く↓

⑦ 必要と感じている福祉サービスなどはどのようなことですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

- 1 障害者世帯向け公営住宅や福祉ホーム等の障害者が暮らしやすい住宅の整備
- 2 障害者の雇用施策の充実
- 3 短期入所(ショートステイ)、日帰り介護(デイサービス)、通所によるリハビリテーション等の施設での福祉・医療サービスの充実
- 4 訪問介護(ホームヘルプサービス)、ガイドヘルパー、訪問看護等の在宅福祉・医療サービスの充実
- 5 入所施設の整備
- 6 機能訓練の充実(リハビリ、福祉用具全般)
- 7 日常生活での総合的な(保健福祉・医療を含む生活支援全般)相談窓口の設置
- 8 本人又は家族への精神的ケアやカウンセリングを行う事業の設置
- 9 年金や手当などの所得保障の充実
- 10 医療費の負担軽減
- 11 道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実
- 12 点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送などの情報提供の充実
- 13 手話通訳・要約筆記制度の充実
- 14 障害者のためのパソコン教室の充実
- 15 障害者のスポーツ、芸術・文化活動などに対する支援
- 16 災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実
- 17 障害者への理解を深めるための教育やボランティア活動、障害者との交流の促進
- 18 就労・就学でのコミュニケーション支援
- 19 特になし
- 20 その他 ()

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑧ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

- 1 福祉サービス
- 2 医療
- 3 年金
- 4 住まい
- 5 就職
- 6 NPO活動など
- 7 健康づくり
- 8 趣味・娯楽
- 9 相談・資産・運用
- 10 特になし
- 11 その他 ()

◎具体的に知りたいこと。

--

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書

第4・四半期分（平成 年 月～平成 年 月）

調査票記入者氏名		本人との関係	
----------	--	--------	--

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて月1日から 月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2

TEL 03-3506-9460

FAX 03-3506-9439

基本情報

1. 健康被害者情報

(ふりがな)

氏 名 _____ 性別 男 女

生年月日 大正 _____ 年 月 日
昭和 _____
平成 _____

自 宅 住 所
(〒 _____)

[電話 番 号 (_____) _____]

[FAX 番 号 (_____) _____]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

平成 _____ 年 月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答えください。	年齢	主に介護をしている方に○を付けて ください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

_____ 級

_____ 級

生活状況調査票

A票

毎月記入

月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

医療機関での治療状況	①入院中	②通院中	③未治療			
SJS記入欄 現在使用している点眼液はどれですか。(あてはまるものに○を付けてください。)						
① ソフトサンティア	右眼	左眼	② クラビット	右眼	左眼	
③ ヒアレイン	右眼	左眼	④ フルメトロン	右眼	左眼	
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑥ リンデロン	右眼	左眼	
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	右眼	左眼	⑧ 血清点眼	右眼	左眼	
⑨ その他眼科処方薬(内服薬を含む)						
(処方薬)	右眼	左眼	
(処方薬)	右眼	左眼	
⑩ 涙点プラグ	右眼	左眼				
福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 (各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。) (複数回答可)						
①訪問介護	月に	日	不満	どちらとも言えない	満足	利用していない
			①.....	②.....	③.....	④.....
			⑤		⑥	
介護内容	上記の理由					
②訪問入浴介護	月に	日	不満	どちらとも言えない	満足	利用していない
			①.....	②.....	③.....	④.....
			⑤		⑥	
	上記の理由					
③訪問看護	月に	日	不満	どちらとも言えない	満足	利用していない
			①.....	②.....	③.....	④.....
			⑤		⑥	
看護内容	上記の理由					

次頁へ続く↓

④訪問リハビリ 月に 日	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
リハビリ内容	上記の理由
⑤居宅療養管理指導 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
	上記の理由
⑥通所介護 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
介護内容	上記の理由
⑦通所リハビリ 月に 回	不満 どちらとも言えない 満足 利用していない ①……②……③……④……⑤ ⑥
リハビリ内容	上記の理由

次頁へ続く↓

<p>⑧短期入所</p> <p style="text-align: right;">月に 回</p>	<p>不満 どちらとも言えない 満足 利用していない</p> <p>①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥</p>
<p>入所内容</p>	<p>上記の理由</p>
<p>⑨送迎サービス</p> <p style="text-align: right;">月に 回</p>	<p>不満 どちらとも言えない 満足 利用していない</p> <p>①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥</p>
<p>サービス内容</p>	<p>上記の理由</p>
<p>⑩ガイドヘルパー</p> <p style="text-align: right;">月に 回</p>	<p>不満 どちらとも言えない 満足 利用していない</p> <p>①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥</p>
<p>サービス内容</p>	<p>上記の理由</p>
<p>⑪上記以外の福祉サービス 月に 回 (サービス名)</p>	<p>不満 どちらとも言えない 満足 利用していない</p> <p>①・……②・……③・……④・……⑤ ⑥</p>
	<p>上記の理由</p>

生活状況調査票

B票

4半期毎記入

IV期	月～ 月分	平成 年 月末日現在
-----	-------	------------

答えられる範囲でお答えください。

<p>◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康被害を受けた本人 本人の意向を聞いて介護者が記入 本人の意向をくみとり介護者が記入 介護者が回答
<p>① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> まったく外出していない ほぼ毎日 週に4から5回 週に2から3回 月に2回から3回
<p>①-1 外出された方にお聞きします。 主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 介助なし 配偶者 親 子供 その他の家族 親戚 ホーム(ガイド)ヘルパー 隣人・知人 雇人 ボランティア その他()
<p>② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 困ることや不満に思うことはない。 困ることや不満に思うことがある。
<p>②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。 困ることや不満に思うことは何ですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 介助者がいない 経費がかかる 人の目が気にかかる 人と話することが困難 外出に必要な情報が得られない 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便 道路や駅などの公共の場所の利用が不便 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便 人の混雑や車に身の危険を感じる 駅などにおける人間関係のトラブル その他()

次頁へ続く↓

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。

- 1 まったくしていない
- 2 参加(活動)した

③-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1 コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
- 2 スポーツ教室、大会などへの参加
- 3 旅行・キャンプ・釣りなどの活動
- 4 趣味の同好会活動
- 5 ボランティアなどの社会活動
- 6 障害者団体の活動
- 7 地域活動
- 8 パソコンを利用した社会参加
- 9 特にない
- 10 その他 ()

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

④ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。

次頁へ続く↓

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- 健康被害を受けた本人
- 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 介護者が回答

⑤ 日常生活についてお聞きします。
(各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

⑤-1 ものがみえにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい難しいですか。	全く 難しく ない ①.....	あまり 難しく ない ②.....	難しい ③.....	とても 難しい ④.....	見えにく いのでや めた ⑤
⑤-2 目や、目のまわりの、痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	ひじょうに ある ①.....	かなり ある ②.....	中くらい ある ③.....	かすかに ある ④.....	まったく ない ⑤
⑤-3 ものがみえにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	ひじょうに ある ①.....	かなり ある ②.....	中くらい ある ③.....	かすかに ある ④.....	まったく ない ⑤
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	ひじょうに ある ①.....	かなり ある ②.....	中くらい ある ③.....	かすかに ある ④.....	まったく ない ⑤

(福祉サービス)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- 健康被害を受けた本人
- 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 介護者が回答

⑥ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

生活状況調査票

C票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)	
1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
① 過去に困ったことはありましたか。	1. はい 2. いいえ
①-1 はいと答えた方にお聞きします。それはどんなことですか。	
①-2 解決策はありましたか。	1. 解決した 2. していない
①-3 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。	
①-4 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。	
② 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれましたか。	1. あった 2. なかった
②-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどんなこと又は、どんなときですか。	
③ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。(最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	満足できなかった どちらとも言えない 満足 ①.....②.....③.....④.....⑤
③-1 その満足度の理由は何ですか。	

次頁へ続く↓

⑦ 必要と感じている福祉サービスなどはどのようなことですか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

- 1 障害者世帯向け公営住宅や福祉ホーム等の障害者が暮らしやすい住宅の整備
- 2 障害者の雇用施策の充実
- 3 短期入所(ショートステイ)、日帰り介護(デイサービス)、通所によるリハビリテーション等の施設での福祉・医療サービスの充実
- 4 訪問介護(ホームヘルプサービス)、ガイドヘルパー、訪問看護等の在宅福祉・医療サービスの充実
- 5 入所施設の整備
- 6 機能訓練の充実(リハビリ、福祉用具全般)
- 7 日常生活での総合的な(保健福祉・医療を含む生活支援全般)相談窓口の設置
- 8 本人又は家族への精神的ケアやカウンセリングを行う事業の設置
- 9 年金や手当などの所得保障の充実
- 10 医療費の負担軽減
- 11 道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実
- 12 点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送などの情報提供の充実
- 13 手話通訳・要約筆記制度の充実
- 14 障害者のためのパソコン教室の充実
- 15 障害者のスポーツ、芸術・文化活動などに対する支援
- 16 災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実
- 17 障害者への理解を深めるための教育やボランティア活動、障害者との交流の促進
- 18 就労・就学の場でのコミュニケーション支援
- 19 特にない
- 20 その他 ()

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑧ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

- 1 福祉サービス
- 2 医療
- 3 年金
- 4 住まい
- 5 就職
- 6 NPO活動など
- 7 健康づくり
- 8 趣味・娯楽
- 9 相談・資産・運用
- 10 特にない
- 11 その他 ()

◎具体的に知りたいこと。

VIII 健康状態報告書(診断書様式)

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2

TEL 03-3506-9460

FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	---	---	---	--------

① 一般身体所見として特記すべき事項

② 知的障害に関わる所見

③ 神経学的所見

- 起立：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 歩行：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 四肢の運動機能：自発運動可能 ・ 自発運動不可能
- 深部腱反射：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- 筋トーン：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- その他の神経学的所見

④ 日常生活状況（現在入院中・入所中・その他）

ア 全般的状況について（家庭及び家庭以外の者と対人関係についても具体的に記載してください。）

イ 知的障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか1つを○で囲んでください。）ここで言う知的障害とは、病的体験・欠陥・痴呆・知能遅滞・性格変化等をいいます。

- (ア) 社会生活は普通にできる。
- (イ) 家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活はできない。
- (ウ) 家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて介護が必要である。
- (エ) 身のまわりのことはかろうじてできるが、適当な介護が必要である。
- (オ) 身のまわりのことは全くできない。

ウ 運動機能障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか一つを○で囲んでください。）

- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| ●食事 | ひとりでできる・介助があればできる・経管栄養等 |
| ●用便（月経）の始末 | ひとりでできる・介助があればできる・オムツ |
| ●入浴・洗面・衣服の着脱 | ひとりでできる・介助があればできる |
| ●簡単な買物 | ひとりでできる・介助があればできる・できない |
| ●家族との話 | 通じる ・少しは通じる ・通じない |
| ●家族以外の者との話 | 通じる ・少しは通じる ・通じない |
| ●刃物・火等の危険 | わかる ・少しはわかる ・わからない |
| ●戸外での危険（交通事故等）から身を守る | 守れる ・不十分ながら守れる・守れない |
| ●その他（ | ） |

⑤ QOL（生活の質）の改善のために医学的に行えることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。

平成 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医師氏名

印

所在地 〒

電話番号

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2

TEL 03-3506-9460

FAX 03-3506-9439

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	---	---	---	--------

(測定日： 年 月 日)

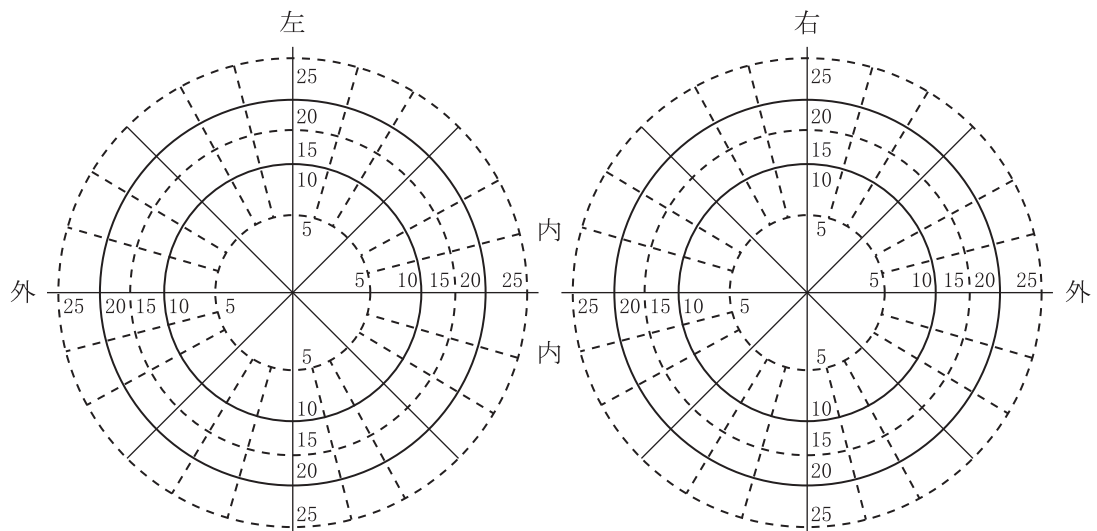
① 視 力 (視力測定の際の照度は200ルクスとします。)

	裸 眼	矯 正	矯正眼鏡
右 眼			D
左 眼			D

② 所 見 (必要なときは適宜図示してください。)

前 眼 部 所 見	中 間 透 光 体 所 見	眼 底 所 見
右	右	右
左	左	左

③ 視 野 (傷病から視野障害を測定する必要があると認めた場合には測定してください。)



④ QOL（生活の質）の改善のために医学的に行えることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。（眼科医の視点からのQOL改善について）

⑤ その他に呼吸機能障害、運動機能障害等の症状がある方の現況（眼科医の視点から）

平成 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医師氏名

印

所在地 〒

電話番号